

第6章 道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）

第1 編成要領改訂の趣旨と要点

平成27年3月、文部科学省は学校教育法施行規則及び学習指導要領を一部改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」という。）と位置付けた。平成27年7月に公表された小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では、これまでの道徳教育の課題について以下の例を示した上で、これらの課題や実態を真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要がある。

- ・ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
 - ・ 他教科に比べて軽んじられていること
 - ・ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること
- そのため、小学校教育課程編成要領（道徳）の改訂に当たっては、これらの課題を踏まえながら、各学校が指導計画の作成に、より創意工夫を生かせるよう心掛けたところである。

1 改訂の趣旨

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切に行わなければならない。この道徳教育の基本的な考え方は、これまでの考え方を引き継ぐものであり、今回の改訂は、このことを踏まえた上で改善を図り、道徳教育を一層充実させようとするものである。

今回の改訂の趣旨は、次のとおりである。

- (1) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要としての道徳科の役割を示す。
- (2) そのための指導計画の作成と内容の取扱いを示す。
- (3) 道徳科の指導の在り方を明確にし、「考える道徳」「議論する道徳」を充実する。
- (4) 道徳教育を充実させるために必要な要点、配慮事項を示す。

2 改訂の要点

今回の改訂の要点について、小学校学習指導要領に沿い、以下のとおり示す。

- (1) 「第1章 総則」に関わって
 - ア 道徳教育も道徳科も、その目標は「道徳性」を養うことである。その上で、道徳教育の目標が、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と簡潔に示されたことを受け、その目標を指導計画等に反映すること。
 - イ 道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体で行うことから、校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となって全体計画を作成して全教師が協力して行うこと。また、各教科等で道徳教育の指導の内容及び時期を示すこと。
 - ウ 豊かな体験の充実と、道徳教育がいじめの防止や安全の確保につながることを指導計画等に反映すること。
 - エ 道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表し、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携に努めること。
- (2) 「第3章 特別の教科 道徳」に関わって
 - ア 道徳科の目標として、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と示されたことを、道徳科の授業に反映すること。
 - イ 内容項目の4つの視点について、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」と、順序が改められたことを指導計画や道徳科の授業に反映すること。
 - ウ それぞれの内容項目に付記された「A 善悪の判断、自律、自由と責任」などの言葉を、指導計画に反映すること。
 - エ 内容項目については、新たに加えられた項目等を指導計画や道徳科の授業に反映すること。

- オ 指導計画の作成について、「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫」が加えられたことを受け、年間指導計画等に反映すること。
- カ 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるような指導の工夫があること。
- キ 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動を取り入れること。また、指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法の工夫があること。

第2 指導計画の作成

1 基本的な考え方

道徳教育における指導計画とは、「道徳教育の全体計画」、「道徳科の年間指導計画」及び「道徳科学習指導案」をいう。各学校は道徳教育の充実を図るため、道徳科を道徳教育の要とした「道徳教育の全体計画」「道徳科の年間指導計画」を作成する。

指導計画の作成に当たっての基本的な考え方は次のとおりである。

(1) 道徳教育の指導体制

ア 校長の方針の明確化

校長は、道徳教育の充実・改善を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、児童の道徳性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、学校の教育目標との関わりで、道徳教育の基本的な方針等を明示する。

イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上で中心となり、校長の方針の下、全教師の参画、分担、協力の下にその充実を図る。機能的な協力体制を整えるため、道徳教育推進教師の役割を明確にしておく必要がある。

(2) 指導内容の重点化

ア 各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育むことに配慮する。

イ 低学年では、挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けること、善悪を判断し、してはならないことをしないこと、社会生活上のきまりを守ることに配慮する。

ウ 中学年では、善悪を判断し、正しいと判断したことを行うこと、身近な人々と協力し助け合うこと、集団や社会のきまりを守ることに配慮する。

エ 高学年では、相手の立場を理解して支え合うこと、法やきまりの意義を理解して進んで守ること、集団生活の充実に努めること、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重することに配慮する。

それまでの学年における指導を踏まえ、中学校段階との接続も視野に入れ、特に国家・社会の一員としての自覚を育てることに配慮する。

(3) 豊かな体験活動の充実といじめの防止・安全の確保

ア 教師と児童、児童相互の人間関係を豊かにするために、言語活動の充実を図るとともに、共に語り合う場、学び合う場などを設け、児童を理解する機会や児童相互による道徳教育の機会を増やす。また、教室や校舎、校庭などの物的環境は児童の道徳性を養うことに深く関わることから、環境の整備に努めることが求められる。

イ 児童の道徳性が養われるよう、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動など、様々な体験活動の充実を図る。その際、児童に体験活動を通して道徳教育に関わるどのような内容を指導するのか指導の意図を明確にし、実施計画にも明記する。

ウ 日常生活においては、特に、いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道徳性を養うことで、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践することができるようにする。

(4) 家庭や地域社会との連携

ア 学校は、道徳教育の方針を学校通信やホームページなどで家庭や地域社会に伝え、共通理解を図り、協力を得るようにする。

イ 学校は、懇談会、講演会、学校応援団会議など相互交流の場を設定し、家庭、地域社会と連携して道徳教育の充実を図る。

2 指導計画作成の手順・留意事項

(1) 道徳教育の全体計画

ア 基本的な事項を把握する。

- ・教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ・学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い、児童の実態と課題

イ 校長の方針の下に、学校の教育目標を踏まえ、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標を設定する。

ウ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による推進体制を示す。

エ 道徳科の指導方針を明確にする。

オ 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫、校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導の方針を示す。

カ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。

キ 学校の特色ある教育活動や豊かな体験活動、「規律ある態度」等における道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。

ク 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針を示す。

ケ 道徳教育がいじめの防止や安全の確保等の現代的課題につながるよう指導の方針を示す。

コ 家庭や地域社会、近隣の学校などとの連携や交流の在り方を示す。

サ 計画の実施及び評価・改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。

シ その他

全体計画の別葉として、各教科等、特色ある教育活動、豊かな体験活動の指導内容と道徳科の内容項目との関連を示す一覧表を作成する。全体計画を各学級において具現化し、教師や児童の個性を生かした道徳教育の指針を示す「学級における指導計画」を作成することも考えられる。

(2) 道徳科の年間指導計画

ア 全体計画に基づき、学年ごとの道徳科における指導の基本方針を具体的に示す。

イ 道徳教育の重点目標、各学年の重点目標などを踏まえて、各学年で繰り返し指導する内容項目を選定する。

ウ 内容項目配当時数一覧表を作成する。

エ 主題名を付ける。

オ 重点的な指導や複数時間の関連を図った指導ができるように、指導時期を考えて主題を配列する。

カ 主題構成の理由は、ねらいを達成するために活用する教材の内容を踏まえ簡潔に示す。

キ 展開の大要及び指導の方法を示す。

ク 他の教育活動などにおける道徳教育との関連を示す。

ケ 年間指導計画の改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。

コ その他

校長や教頭などの参加や他の教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、「規律ある態度」との関連、「彩の国の道徳」、「家庭用彩の国の道徳」等の活用、複数時間取り上げる内容項目の全体構想などを示す。また、時期、時数、ねらい、教材、学習指導過程、指導方法の変更については、計画の弾力的な取扱いについて配慮する。

(3) 道徳科の学習指導案

ア ねらいを検討する。

イ 児童の実態を踏まえ、指導の重点を明確にする。

ウ 教材を吟味する。

エ 学習指導過程を構想する。

オ その他（次の観点から、多様な学習指導案を創意工夫していく。）

- ・問題解決的な学習の工夫
- ・多様な教材の活用
- ・保護者や地域の人々の参加や協力
- ・道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫
- ・特別活動の多様な実践活動を生かす工夫
- ・校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導
- ・言語活動の充実を図り、言葉を生かし考えを深める工夫
- ・ねらいや児童の実態、教材の特質等に応じた指導方法の工夫

第3 指導計画作成のための資料

1 全体計画

全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。「内容及び時期」「一覧できるもの」については、「別葉」にして加える必要がある。

(1) 全体計画の例



(2) 全体計画作成上の創意工夫と留意点

ア 校長の明確な方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力指導体制を整える。

学校における道徳教育は、人格の基盤となる道徳性を養うものであり、学校の教育活動全体で指導し、家庭や地域社会との連携の下に進めねばならないことから、特に教育課程の管理者である校長が指導力を発揮し、道徳教育推進教師が中心となって全教師が全体計画の作成に積極的に参画するよう体制を整える必要がある。以上から、学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示すため、全体計画の学校教育目標の直下に校長の道徳教育の方針を位置付ける。

イ 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る。

全教師が、道徳教育及び道徳科の重要性や特質について理解を深められるよう、関係する教育法規や教育課程の仕組み、時代や社会の要請、児童の実態、保護者や地域の人々の意見等の基本的把握事項について十分研修を行い、教師自身の日常的な指導の中での課題が明確になるようにする。そのことを通して、全体計画の作成に関わる教師の意識の高揚を図ることができ、その積極的な活用につなげることができる。

ウ 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにする。

全体計画の作成に当たっては、学校や地域社会の実態を踏まえ、各学校の課題を明らかにし、道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にするなど、各学校の特色が生かされるよう創意工夫することが大切である。第1章総則第4の3の(2)には、今日的課題と学年段階ごとの発達上の課題を踏まえて重点的な指導を行う観点が示されている。各学校においては、それぞれの実態に応じて、学年段階ごとに第3章の第2の内容に示す内容項目の指導を通して、全体としてこれらの観点の指導が充実するよう工夫する必要がある。

エ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を、道徳科の内容との関連で捉え、道徳科が要としての役割を果たせるよう計画を工夫することが重要である。

また、学校教育全体において、豊かな体験活動がなされるよう計画するとともに、体験活動を生かした道徳科が効果的に展開されるよう道徳科の年間指導計画等においても創意工夫することが大切である。

オ それぞれの学級の特色を生かした学級における指導計画を作成する。

学校における道徳教育を効果的に行い、児童が自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする力を育てるには、学級における指導を充実させることが不可欠である。学級を担任する教師は全体計画に基づいて学級における指導をどのように行うのかを具体的に計画し、見通しをもって指導に当たることが大切である。

カ 家庭や地域社会、学校間交流、関係諸機関等との連携に努める。

全体計画を具現化するには、保護者、地域の人々の協力が不可欠である。また、近接の幼稚園や保育所、小・中・高等学校、特別支援学校などとの連携や交流を図り、共通の関心の下に指導を行うとともに、福祉施設、企業等との連携や交流を深めることも大切であり、それらが円滑に行われるような体制等と工夫することが求められる。その際、学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ることが大切である。

キ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。

全体計画は、学校における道徳教育の基本を示すものである。したがって、頻繁に変更することは適切ではないが、評価し、改善の必要があれば直ちにそれに着手できる体制を整えておくことが大切である。また、全教師による一貫性のある道徳教育を推進するためには、校内の研修体制を充実させ、全体計画の具現化や評価、改善に当たって必要となる事項についての理解を深める必要がある。

(3) 全体計画の別葉例（各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期）

重点内容項目との関連や各教科等の指導計画を作成する際の道徳教育の観点を記述する。また、各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる児童の内容及び時期を整理して示す。

※ 以下「ア、イ」を踏まえ、どちらかを各学校は作成していく。

ア 指導時期から見た別葉例

指導時期ごとにまとめた一覧表とすることで、道徳科の授業を行うにあたり、本時の内容項目について、他の教科領域においてどのような学習を行ってきたかの把握ができ、児童の実態把握につながる。また、道徳科の授業を行うにあたり、道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うことや、指導をより一層深めること、相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意して指導に臨む際の日安とすることができる。

道徳教育全体計画別葉 道徳の時間と各教科、領域の指導内容と時期との関連(1年) ××市立△△小学校

低学年の重点目標		・生命を大切にする【D生命の尊さ】 ・友だちと仲良く助け合う【B友情、信頼】 ・よいことと悪いことを区別してよいことを行う【A善悪の判断、自律、自由と責任】 ・約束やきまりを守る【C規則の尊重】			
内容\月	4月	5月	6月	7月	
1年生にかかわる学校行事	入学式 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 身体測定 【A節度、節制】【D生命の尊さ】 避難訓練 【A善悪の判断、自律、自由と責任】 【D生命の尊さ】	新体力テスト 【A希望と勇気、努力と強い意志】 家庭訪問 【C家族愛、家庭生活の充実】	プール開き 【C規則尊重】【D生命の尊さ】	授業参観 【A希望と勇気、努力と強い意志】 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	
特別の教科	道徳	「学校のたからもの」 【C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】 「えがおであいさつ」 【B礼儀】	「わたしも手つたうよ」 【C家族愛、家庭生活の充実】 「かくれんぼ」 【C規則の尊重】 「たかしくんの1日」 【A節度、節制】 「さんぽ」 【D自然愛護】	「マラソン」 【A希望と勇気、努力と強い意志】 「塙保己一」 【B親切、思いやり】 「たびに出で」 【B礼儀】 「おそうじ大すき」 【C勤労、公共の精神】	「黄色いベンチ」 【A節度、節制】 「虫が大すき」 【D自然愛護】
教科	国語	「なかよし」 【B友情、信頼】 「みんなとたのしく」 【B礼儀】	「おはなしききたいな、よみたいな」 【B礼儀】 「はなしましよ、ききましよう」 【B礼儀】	「けむりのきしや」 【B親切、思いやり】 【D感動、畏敬の念】 「なにか、かくれているのでしょうか」 【D自然愛護】	「おおきなかな」 【B友情、信頼】 【C勤労、公共の精神】
	算数	「10までのかず」 【A節度、節制】	「なんぼんめ」 【C規則の尊重】	「ふえたりへったり」 【C規則の尊重】 「たしざん(1)」 【C規則の尊重】	「ひきざん(1)」 【C規則の尊重】
	生活	「ともだちいっぱい」 【B友情、信頼】 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 「がっこうたんけん1」 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 【B感謝】	「あんぜんなるきかた」 【A節度、節制】 「はるのあそび」 【B友情、信頼】 【D自然愛護】 「たねまきのじゅんび」 【D自然愛護】 「たねまき」 【D自然愛護】 「ちいさなめ」 【D自然愛護】	「がっこうたんけん2」 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 「まいにちのせわ」 【D自然愛護】 「がっこうのいきもの」 【D自然愛護】 【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	「なつのおそび」 【B友情、信頼】 【D自然愛護】 「きれいなはな」 【D自然愛護】 「いきものさがし」 【D自然愛護】 「いきものだいすき」 【D自然愛護】
	音楽	「ひらいたひらいた」 【D自然愛護】 うたでなかよしになろう 【B友情、信頼】 「うたでさんぽ」 【B友情、信頼】	「さんぽ」 【D生命の尊さ】	「ぶんぶんぶん」 【D自然愛護】 「かたつむり」 【D自然愛護】	「うみ」 【D自然愛護】
	図工	すきなものいっぱい 【B友情、信頼】	しぜんとなかよし 【B友情、信頼】 【D自然愛護】 ひかりのくにのなかまたち 【D感動、畏敬の念】		
	体育	「体ほぐし・多様な動き」 【B友情、信頼】 「かけっこ・リレー」 【A希望と勇気、努力と強い意志】 【B友情、信頼】 【C規則の尊重】	「リズム遊び」 【B友情、信頼】	「鬼遊び・ボール投げ遊び」 【B友情、信頼】 【C規則の尊重】 「固定施設」 【A希望と勇気、努力と強い意志】	水遊び 【A節度、節制】 【A希望と勇気、努力と強い意志】
	地域・家庭との連携	入学式 避難訓練	家庭訪問		授業参観

イ 内容項目から見た別葉例

内容項目ごとにまとめた一覧表とすることで、当校の重点目標に関わる内容項目の把握が明確となる。

さらに各教科等において学習する機会の少ない内容項目を道徳科に補充したり、各教科等における道徳教育を道徳科により効果的に深化したりするなど全教育活動における道徳教育と道徳科の関連を深めることができる。

また各教科等において、教師が道徳の内容項目を意識して指導することは大切であり、指導の意図を明確にしておくことが必要である。

道徳教育全体計画別葉 道徳科と各教科等の内容項目と時期の関連 内容項目別(6年)

高学年の 重点目標	・美しいものに感動する心を持ち自他の生命を尊重する。 【D生命の尊さ】【D感動、畏敬の念】
	・思いやりの心を持ち、相手の立場にたって行動する。 【B親切、思いやり】
	・誠実で責任ある行動をとる 【A正直、誠実】
	・社会の一員として公共のために役立つとする。 【C勤労、公共の精神】

××市立△△小学校

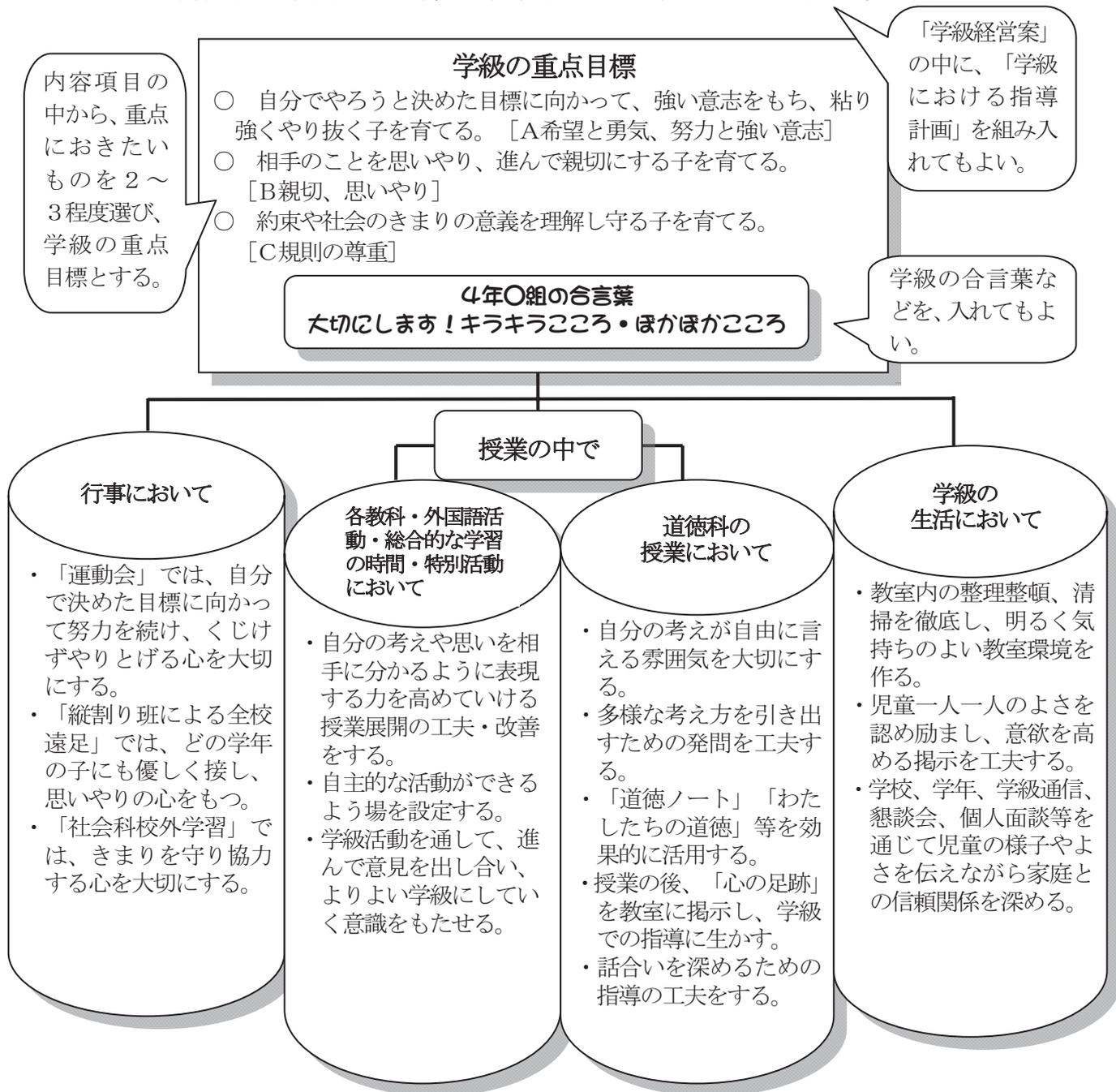
内容項目\各教科等	道徳	特活			教科		
		学級活動(1)	学級活動(2)	クラブ 児童会 委員会	国語	社会	算数
A 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断, 自律, 自由と責任	自主学习ノート[5月] うばわれた自由[1月]	学級の組織をつくらう[4月]				
	正直, 誠実	由美の交換ノート[4月] 手品師[11月]					
	節度, 節制	心のプレーキ「くつそろえ」[5月]		家庭学習の工夫[6月] 楽しい給食交流[7月] 心の健康[2月]			
	個性の伸長	日本女性水上飛行機操縦士第1号-西崎キク[4月]		クラブ開始[5月] クラブ発表会[2月]	「ぼくの世界, きみの世界」[10月]		
	希望と勇気, 努力と強い意志	道ひとすじに-荻野吟子-[4月] 父の思いを受け継いで[3月]	学級活動の年間計画を立てよう[5月] 読書集会の計画を立てよう[10月] 友達発表会の計画を立てよう[11月] 今年目標発表会[1月] 集会の計画を立てよう[2月]	将来のわたし[11月] 卒業までの計画[1月]			
	真理の探究	盲目の学者-堀保己一-[6月] 天からの手紙[11月]	夏休みの体験発表会をしよう[9月] 卒業文集の内容を決めよう[12月]	読書の範囲を広げよう[10月]			
				リリーススピーチをしよう[4月] 学校案内のパンフレットを作ろう[5月] 「日本語をコンピューターで書き表す」[5月] 「学んだことを生かして調べよう」[6月] 随筆を書こう[7月] 「パネルディスカッションをしよう」[9月] 「言葉カードを作ろう」[10月] 「ぼくの世界, きみの世界」[10月] 「意見文を書こう」[10月] 俳句・短歌を作ろう[11月] 「表現方法を選んで書こう」[1月] 「伊能忠敬」[2月] 「先輩からの手紙—六年間をふり返って」[3月]	「江戸の文化と新しい学問」[9月]	対称な図形[4月] 分数×分数[5月] 分数÷分数[5月] 文字と式[6月] 比とその利用[6月] 図形の拡大と縮小[7月] 速さ[9月] 比例と反比例[10月] 円の面積[10月] 小数や分数の計算のまとめ[11月] 立体の体積[11月] およその形と大きさ[11月] 場合を順序よく整理して[11月] 資料の調べ方[12月] 量の単位[1月]	

(4) 全体計画の別葉例（学級における指導計画）

学級における指導計画は、学級における道徳教育を充実させるためのものである。全体計画を児童や学級の実態に応じて具体化し、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開するための指針である。作成に当たっては、学校や学年の道徳教育の方針を受け、学級担任が創意工夫する。

〇〇市立〇〇小学校
担任 〇〇〇〇

平成〇〇年度 第4学年〇組 学級における指導計画



	1学期	2学期	3学期
反省	「道徳が好き」という子供たちの心を大切に、毎時間授業を行ってきた。自分の考えを相手に伝わるよう発言しようという子が増えた。クラスの合言葉を大切にして子供たちに豊かな心を育みたい。		

2 年間指導計画

年間指導計画は、道徳科の指導が全体計画に基づき、児童の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された、全学年にわたる年間の指導計画である。

(1) 年間指導計画の意義

- ア 6年間を見通した計画的発展的な指導を可能にする。
- イ 個々の学級において道徳科の学習指導案を立案する拠り所となるものであり、道徳科の授業は年間指導計画に基づいて実施することが基本である。
- ウ 学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

(2) 年間指導計画の内容

- ア 各学年の基本方針を具体的に示す。
- イ 各学年の年間にわたる指導の概要を示す。
(指導の時期、主題名、ねらい、教材、主題構成の理由、学習指導過程と指導の方法、他の教育活動等における道徳教育との関連、その他)

(3) 学年別配当時間数一覧

年間の道徳科の時間に、各内容項目を何時間扱うのか、学年の重点目標や道徳教育の重点目標に対応して時間を配当し、一覧表で示す。

〔学校の道徳教育の重点内容項目が〔A正直、誠実〕〔B親切、思いやり〕D生命の尊さ〕、
第5学年の重点内容項目が〔A個性の伸長〕〔B友情、信頼〕の場合の学年別配当時間数一覧例〕

視点	内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
A まじりて 良自身を 関するこ と	善悪の判断、自律、自由と責任	2	2	2	2	1	2	11
	正直、誠実	2	3	2	2	2	2	13
	節度、節制	2	2	2	1	2	1	10
	個性の伸長	1	1	2	2	3	1	10
	希望と勇気、努力と強い意志	2	2	1	2	1	1	9
	真理の探究					1	2	3
B まじりて 人との関 と	親切、思いやり	3	3	3	3	3	2	16
	感謝	1	1	2	2	2	1	11
	礼儀	2	2	2	1	2	1	10
	友情、信頼	2	1	1	2	3	2	11
と	よりよく生きる喜び					2	1	3
合計		34	35	35	35	35	35	209

※ 太線で囲ってあるのが、重点的に指導する内容項目です。

(4) 学年別主題配列一覧表（第5学年の例）

主題配列一覧表は年間指導計画のいわば目次であり、年間を見通す際に活用することができる。

学期	月	週	主題名	内容項目	教材名<出典>	備考
1 学期	4 月	1	節度ある生活	A節度、節制	流行おくれ <小学校読み物資料とその利用1>	備考欄には、 変更をした場 合の変更点や 理由、授業後 に気付いたこ とや改善点な どを書き加え て、次年度の 年間指導計画 作成の際に参 考にできるよ うにする。
		2	正しいと思うことを	C公正、公平、社会正義	あなたも同じ… <彩の国の道徳>	
		3	自分の心に誠実に	A正直、誠実	手品師 <小学校道徳の指導資料とその利用1>	
	5 月	1	相手の立場や心を理解する難しさ	B親切、思いやり	くずれ落ちた段ボール箱 <小学校道徳の指導資料とその利用4>	
		2			最後のおくり物 <私たちの道徳>	
		3	かけがえのない命	D生命の尊さ	わたしって何 <彩の国の道徳>	

(5) 年間指導計画の例

学年の基本方針		1 様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実を図る。 2 教材を通して、自分との関わりの中で考え、自己の生き方について考えを深める。		
月	主題名	節度ある生活	内容項目	A節度、節制
4	ねらい	登場人物が置かれた状況に自分を重ねて考えることを通して、生活習慣の大切さや自分の生活を見つめ直し、自ら節度を守り節制に心掛けようとする態度を育てる。		
	教材名	流行おくれ	出典	読み物資料とその利用 「主として自分自身のこと」
	主題構成の理由	不規則な生活になりがちな児童も少なくない実態の中で、生活を振り返り、自ら節度を守り節制に心掛けることについて、主人公を通して考えることの意義は大きい。		
	学習指導過程	1 児童の流行に関することについて話し合う。 2 教材「流行おくれ」を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学について話をするまゆみは、どんな気持ちだったか。 (2) 母にたしなめられたまゆみはどんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われたまゆみは、どんな気持ちだったか。 (4) しーんとした自分の部屋を見回すまゆみに、あなたは何と言葉をかけますか。それはなぜですか。 3 節度、節制について、心掛けていることや実行している事柄について、自分の生き方について振り返るとともに、これからの生き方について考える。 4 校長の話聞く		
	他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時）、学級活動（2）基本的な生活習慣との形成		
	備考	校長が説話を行う。		
	授業後の改善点	・親の気持ちを知るために、学校公開日に、保護者参加型の授業で取り組むとよい。		
	主題名	公德を大切にすること	内容項目	C規則の尊重
	ねらい	様々な立場から権利や義務について考えることを通して、皆が気持ちよく過ごすための在り方を理解し、自他の権利を尊重し合おうとする態度を育てる。		
	教材名	お客様	出典	小学校道徳 読み物資料集（文科省）
	主題構成の理由	人が大勢集まる場所で、自他の権利を尊重し合い、互いに気持ちよく過ごせるためにはどのようにしたらよいかを改めて考えたい。		
	学習指導過程	1 私たちの道徳を活用し、権利、義務という言葉について知る。 2 教材「お客様」を読んで話し合う。 (1) わたしが、係の人の注意を快く思わなかったのはどんな気持ちからか。 (2) わたしが「何か、変だ」と思ったのはどんな考えからか。 (3) ショーが終わってから、わたしはどんなことを考えたか。 3 周りの人の権利を尊重するために、きまりやマナーを守ることについて、これからの自分の生き方について考える。 4 教師の説話を聞く。		
	他の教育活動との関連	林間学校		
	備考	私たちの道徳「権利とは、義務とは何だろう」		
授業後の改善点	・二つの立場から「権利と義務」について考えさせるために、係の人と客の役割演技を取り入れるとよかった。			

3 学習指導案

(1) 学習指導案作成のポイント

- ・ 年間指導計画に位置付けられた主題を指導する。
- ・ 児童や学級の実態に即して、教師自身の創意工夫を生かして作成する。
- ・ 何をどのような順序、方法で指導し、評価し、主題に関連する本時以外の指導にどのような生かすかなど、学習指導の構想を表現する。

- | | | |
|---|--------------------------|--|
| 1 | 主題名 | ・ 内容を明確にし、簡潔な表現にする。
・ 年間指導計画における主題名を記述する。 |
| 2 | ねらい | ・ 年間指導計画を踏まえて記述する。 |
| | 教材名 | ・ 出典を明らかにする。 |
| 3 | 主題設定の理由 | |
| | (1) ねらいや指導内容について | ・ 学習指導要領を踏まえて、ねらいや指導内容について教師の捉え方を記述する。
・ 学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の第2節内容項目の指導の観点、内容項目の概要及び指導の要点を参考に記述する。 |
| | (2) これまでの学習状況及び児童の実態について | ・ ねらいとする道徳的価値に関連する児童のこれまでの学習状況や実態、教師の願いを記述する。
・ 記述に当たっては、児童の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点から捉えるようにする。 |
| | (3) 教材の特質や活用方法について | ・ 使用する教材の特質を記述する。
・ 教材を生かす具体的な活用方法を記述する。 |
| 4 | 学習指導過程 | ・ 導入、展開、終末の段階に区分する。
・ 児童の学習活動、主な発問と予想される児童の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。 |
| | 導入 | ・ ねらいとする道徳的価値への方向付けや主題に関わる問題意識や教材の内容に興味・関心をもたせる。 |
| | 展開 | ・ 児童が多様な考え方や感じ方に接することができるように、他者と対話したり協働したりすることによって、学び合う。
・ 価値理解、人間理解、他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力を育む。
・ 自分自身の生き方をじっくりと見つめ、夢や希望をもったり、生き方の課題を考えたりする。 |
| | 終末 | ・ 道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、実現することのよさや難しさなどを確認する。
・ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。
・ 学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。 |
| 5 | 他の教育活動との関連 | ・ 特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連、事前や事後指導の工夫について記述する。 |
| 6 | 評価の視点 | ・ 物事を多面的・多角的に考えている様子。
・ 道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子。 |

(2) 指導方法の工夫

- ・ 問題解決的な学習などを取り入れ、課題を自分との関わりで見つめ、考え、話し合うことを通して、児童一人一人が課題に対する答えを導き出せるようにする。
- ・ 体験的な学習などを取り入れ、教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技や実際に具体的な道徳的行為をすることによって、道徳的価値の意義について考えを深められるようにする。

第6学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時

授業者 教諭 〇〇〇〇〇

- 1 主題名 謙虚な心、広い心で 内容項目 [B 相互理解・寛容]
- 2 ねらい 主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、謙虚な心をもつことの大切さを理解し、広い心で相手の立場や考えを受け止めようとする態度を育てる。
教材名 「友とのトラブル」(出典：「彩の国の道徳」(高学年)『夢にむかって』県教委 H22.2)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」である。

人は弱いものである。自分の立場を守るために、つい相手の失敗や過ちを責めたり、自分とは違う意見や立場を受け入れることができなかつたりしてしまう。相手に寛容な心をもって接するためには、自分もそのような弱さをもっていることに気づき、自分は成長の途中であり失敗することもあるということを自覚するなどして、自分自身を謙虚に受け止め、相手の過ちを許す態度をもつことが大切だと考える。また、自分以外の相手から学ぶような広い心をもつことも重要である。

指導に当たっては、自分と異なる意見や立場を尊重することで、相手の過ちなどに対しても自分にも同様なことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処しようとする態度を育てることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、1学期の全校遠足の話合いの際、思いが強いあまりに自分の考えと違う相手の意見を受け入れられないことや一方的に相手を責めてしまうことがあった。しかし、2学期の運動会やおまつりなど、友達と共に行事乗り越えていく中で、互いに意見を出し合い、よいところを生かしながらクラスをまとめていくことで達成感を味わえた。

また、各教科・領域の学習で意図的に話合い活動の時間を設けることで、自分と友達の意見を比べ、友達の考えのよいところを取り入れながら自分の考えを深めることができるようになった。そこで、この授業を通して、さらに謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重できるような態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、「加奈」が携帯電話に振り回され、自分の都合だけで行動してしまう話である。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①唯の話を聞こうともせず、加奈が怒っている場面。

ここでは、相手の気持ちを考えず、感情的に怒っている加奈の気持ちに共感させる。

②亜由美が加奈を訪ねて来た場面。

ここでは、亜由美の話を聞いた加奈がどんなことに気付いたのかを考えさせる。

③「わたし、唯の家まで行って来る。」と言って、唯の家の前まで来た場面。

ここでは謙虚な心や広い心をもって相手と接することの大切さについて考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導	1 相手の都合で破られた		・身近に起こりそうな出来事について

入	<p>時の気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊ぶ約束を相手の都合で破られたら、許せる？許せない？ 	<p>(許せる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 突然、用事ができることもあるから仕方がない。 <p>(許せない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 約束したのに許せない。 	<p>て尋ね、ねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。
展	<p>2 教材「友とのトラブル」の読み聞かせを聞き、加奈の心の変化を中心に話し合う。</p> <p>(1) 唯のことが許せないでいる加奈はどんな気持ちでしょう。</p> <p>(2) 亜由美の話聞いて、加奈はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>(3) 唯の家の前に立ち、呼吸を整えている加奈はどんな気持ちでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1時間も遅れてくるなんて許せない。 遅れてくるなら、連絡してくれればいいじゃない。 遅れてきた唯が悪いんだから謝らない。 唯の話聞こうともしないで一方的に怒ってしまった。 謝りに行こう。 唯にきちんと謝ろう。 唯の気持ちも考えず、一方的に怒ってしまった。 唯の話聞いて謝ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 加奈の気持ちになって問題意識をもちながら範読が聴けるような言葉がけをする。 携帯電話を手にし、相手の都合も考えず感情的に怒っている加奈の気持ちに共感させる。 グループで話し合い、多様な考えを引き出す。唯の気持ちを考えず行動してしまったことに気付いていく加奈の姿から、広い心で相手を受け入れることの大切さを考えさせる。 ☆揺れ動く加奈の心の内を話し合う中で、加奈に託して自分の考えを表出している。 父の言葉の重みを感じながら、唯の気持ちを受け入れようと態度で示している加奈の思いを考えさせる。
開	<p>3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と分かり合うためにはどんなことが大切なのでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことだけではなく、相手のことも考えて行動することが大切だ。 みんなが自分と同じ気持ちではない。色々な人の考えを聞くことが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 ☆これまでの自分を振り返りながら相手の立場や考えを大切にする意義について考えている。
終末	<p>4 校長先生の話聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> じっくりと話がきける雰囲気作りをする。 広い心を持ち謙虚に行動していこうという意欲がもてるように余韻をもって終わりにする。

5 他の教育活動との関連 一略一

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- 謙虚な心を持ち相手の立場や考えを受け止める意義について自分との関わりで考えている。

7 板書計画 一略一

第4学年○組 道徳科学習指導案

平成○○年○月○日（○）第○校時

授業者 教諭 ○○○○○

1 主題名 信頼する心 内容項目 [A 友情・信頼]

2 ねらい 主人公が直面する問題の解決策について根拠を明確にして話し合うことを通して、友達としての在り方についての考えを深め、友達と互いに信頼し合い友情を深めていこうとする態度を育てる。

教材名 「絵はがきと切手」 （出典：「道徳の指導資料とその利用3」文部省）

3 主題設定の理由（略）

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 友達がいてよかったと思うことを発表する。 ・どんな時に友達がいてよかったと思いますか。	・困った時に助けてくれた時。 ・励ましてくれた時。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けをするために、友達がいてよかったと思うことを想起させる。
展開	2 教材「絵はがきと切手」の読み聞かせを行う。 3 道徳的な問題点は何かを話し合う。 (1) ここでは何が問題になっていますか。 (2) 正子は、何と何で迷っていますか。	・ひろみが正子に定形外郵便物を送ってしまい、料金不足になってしまったこと。 ・返事を書くのに、母には「お礼だけ書いた方がいいかもしれない」と言われ、兄には「きちんと教えてあげた方がいい」と言われたことで、どうしようか迷っている。	・教材は、結末がわからないようにするため、最後まで読み聞かせをしない。 ・教材の何が問題となっているのかを明らかにすることで、どの児童も同じように問題意識をもつことができるようにする。 ・主人公が何に迷っているのかを考え、その問題の解決をみんなで考えていくようにする。

友達だったらあなたはどうしますか。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>4 よりよい生き方のできる解決策を構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子はどうしたらよいでしょうか。 <p>・自分ならどうしますか。</p>	<p>【伝えない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろみに嫌われそうだから。 ・ひろみが嫌いで料金不足のことを伝えていると思われるかもしれないから。 <p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も料金不足の葉書を送っていたらきちんと伝えてほしいから。 ・ひろみがこのまま定形外郵便の料金のことを知らずに違う誰かに送ってしまったら、笑われてしまう。だったら親友の私がきちんと伝えてあげた方がいい。 <p>・自分なら、嫌われたくなくて伝えられない。</p> <p>・自分なら、自分も知らないままは嫌だから、伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を伝えるようにさせる。 ・考えの根拠を自分から言えない児童には、教師が切り返し引き出す。 <p>☆「伝えない」または「伝える」と考える根拠を基にしながら友情について多面的に話し合っている。</p> <p>・「自分ならどうする」と問うことによって、他人事ではなく自分事として考えられるようにする。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>5 今までの自分自身を振り返り、学んだことが今後どのように生かすことができるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼し合える友達になるためには、どうしたらよいのでしょうか。それは、今後の生活でどのように生かせるのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも、お互いを信じてきちんと伝え合うことが大切だ。 ・自分が間違えた時には友達にも伝えてほしいし、友達にもきちんと伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れることによって、児童一人一人が道徳的価値の自覚を深められるようにする。 <p>☆友情に関して自分の体験を振り返り、今後に向け自分の考えを見直している。</p>

5 他の教育活動との関連 一略一

6 評価の視点 一略一

7 板書計画 一略一

第4 教育課程を充実させるために

1 校長の方針の明確化とは

学校の道德教育の基本的な方針を全教師に明確に示す。どのような子供を育成するのかを明らかにし、それを実現するための組織をつくる。このことにより、以下の効果が期待できる。

- (1) 全教師が道德教育や道德科の重要性について認識を深めることができる。
- (2) 学校の道德教育の重点や推進すべき方向について共通理解し、具体的な指導が行える。
- (3) 道德教育や道德科の諸計画を作成、展開し、その改善充実を図っていく上での拠り所となる。

2 道德教育推進教師の役割とは

道德教育推進教師とは、道德教育の目標を踏まえ、道德教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道德教育の推進を主に担当する教師である。

役割としては、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を推進する上での中心となり、全教師の参画、分担、協力の下に、その充実が図られるよう働きかけて行くことが望まれる。

なお、道德教育推進教師については、その職務の内容に鑑み、校長が適切に任ずるとともに、学校の実態に応じて人数等に工夫を加えるなどの創意工夫した対応が求められる。

(1) 考えられる8つの役割

- ア 道德教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道德教育の推進、充実に関すること
- ウ 道德科の充実と指導体制に関すること
- エ 道德用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道德教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 道德科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ 道德教育の研修の充実に関すること
- ク 道德教育における評価に関すること

(2) 道德科の指導体制を充実させるための役割例

- ア 特に効果的と考えられる場合は、実際の指導において他の教師などの協力を得るなど学校全体の取組を促進していく。(推進者)
- イ 各担当者の積極的な取組を後方から支援し、各担当者がすすんで道德科の授業を実施しやすい環境を整える。(支援者)
- ウ 道德科の授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役となり、専門的な知識をもって情報を提供し、助言する。(助言者)
- エ 校長の方針の下、各担当者が力を発揮できるよう、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の取組を調整する。(調整役)

3 道徳的実践につながる授業には

道德科の特質を生かした、「考える道徳」「議論する道徳」の実施

(1) 道徳性を養うために行う。

- ア 道德教育の要としての役割を果たす。
- イ 教師の一方的な価値観の押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないようにする。
- ウ 指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をする。

(2) 道徳的価値の意義及びその大切さの理解をする。

(3) 道徳的価値の理解を基に物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。

(4) 自己の生き方についての考えを深めることを強く意識させる。

(5) 道德科の特質を生かした計画的・発展的な指導を行う。

- ア 学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補う役割(補充)
- イ 道徳的価値の意味やそれと自己との関わりについて一層考えを深める役割(深化)
- ウ 道徳的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すという統合としての役割(統合)

(6) 児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう問題解決的な学習、体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導を行う。

第5 道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳科の目標を、「第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と、ある。

この目標に迫るために、以下の道徳の特質を踏まえた授業を計画的・発展的に行い、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うことが求められている。

1 道徳的諸価値について理解する

道徳的価値とは、児童がよりよく生きるために必要とされるもの、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。児童が将来、様々な場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要となる。具体的には、価値理解、人間理解、他者理解を深める学習とする。

- ・価値理解：内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
- ・人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。
- ・他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

2 自己を見つめる

具体的には、これまでの自分の経験やその時の考え方、感じ方と照らし合わせて、更に考えを深めることである。このような学習を通して、道徳的価値の理解とともに自己理解を深める。

- ・自己理解…人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり、感じたりすること。

3 物事を多面的・多角的に考える

具体的には、児童が多様な考え方や感じ方に接することができるようにするために、児童が多様な価値観の存在を前提にして他者と対話したり協働したりする学習となっていること。

4 自己の生き方についての考えを深める

児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすること。

5 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養うことである。具体的には、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質を育てること。

- ・道徳的判断力：様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。
- ・道徳的心情：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。
- ・道徳的実践意欲と態度：道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動を取ろうとする傾向性。

小・中学校学年段階ごとの内容項目一覧表

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)
A. 主として自分自身に関すること	<p>積極的判断、自律、自由と責任</p> <p>正直、誠実</p> <p>前向き、前向き</p> <p>個性の伸長</p> <p>希望と勇氣、努力と強い意志</p> <p>真理の探究</p>	<p>(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。</p> <p>(2) うそをついたりごまかしをしなさい、素直に伸び伸びと生活すること。</p> <p>(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をすること。</p> <p>(4) 自分の特徴に気付くこと、長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自由的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安全に気を付けること、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、態度を守り習慣化すること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改めて長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけず努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p>	<p>(1) 自律の精神を重んじ、自由的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、態度を守り習慣化し、安全で健康のある生活をすること。</p> <p>(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばし、充実した生活を送ること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p>
	B. 主として人との関わりに関すること	<p>親切、思いやり</p> <p>感謝</p> <p>礼儀</p> <p>友情、信頼</p> <p>相互理解、寛容</p>	<p>(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p> <p>(7) 家族など日常生活を支えてくれている人や地域の生活を大切にしたい気持ちを持ち、尊敬と感謝の気持ちをもち、感謝すること。</p> <p>(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても敬意をもって接すること。</p> <p>(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。</p> <p>(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p>	<p>(7) 誰に対しても思いやりを持ち、相手の立場に立って親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や地域からの多くの人々の支え合いや助け合いによって成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく敬意をもって接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり助け合ったり、異性についても理解し、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>
C. 主として集団や社会との関わりに関すること		<p>規則の尊重</p> <p>公正、公平、社会正義</p> <p>勤労、公共の精神</p> <p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <p>伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <p>国際理解、国際貢献</p> <p>生命の尊さ</p> <p>自然愛護</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p>	<p>(10) 約束やまじりを守り、みんなが安心して生活できるようにすること。</p> <p>(11) 自分の好き嫌いをこらえ、みんなのために働くこと。</p> <p>(12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。</p> <p>(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いやお世話をし、家族の役に立つこと。</p> <p>(14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。</p> <p>(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	<p>(11) 約束やまじりの意義を理解し、それらを守ること。</p> <p>(12) 誰に対しても差別することなく、公正、公平な態度で接すること。</p> <p>(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。</p> <p>(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなが協力し合って楽しい家庭をつくること。</p> <p>(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って楽しい学級や学校をつくること。</p> <p>(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。</p>
	D. 主として生命や自然、規範などの関わりに関すること	<p>生命の尊さ</p> <p>自然愛護</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p>	<p>(17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p> <p>(18) 身近な自然に親しみ、動物に優しい心で接すること。</p> <p>(19) 美しいものに親しみ、すがすがしい心をもつこと。</p>	<p>(19) 生命の尊さについて、その脆弱性や有限性なども含めて理解し、自分自身の命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然の素晴らしさを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものや素晴らしいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。</p> <p>(22) 人間には自らの弱さや無力さを克服する勇気や気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きていくことに喜びを見いだすこと。</p>

第7章 外国語活動

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

指導計画作成に当たっては、第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、外国語活動の目標や基本的な理念を踏まえて行うようにする。また、学年ごとの目標を適切に定め、2学年を通じて外国語活動の目標の実現が図れるように配慮する。

(1) 外国語活動の目標 (学 P154)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2) 外国語活動の基本的な理念 (ガイドブック基本編「小学校外国語教育(外国語活動・外国語)の基本理念」参照)

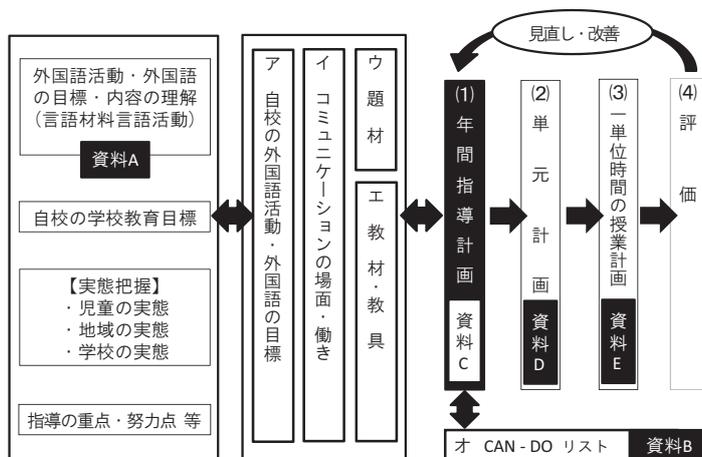
- ア 外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成
- イ 幅広い言語に関する能力の育成
- ウ 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

*ガイドブック：文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」のこと。

2 指導計画作成の一般的な手順 (※資料Aと資料Bは第5章第10節 外国語の資料と対応している)

(1) 年間指導計画の立案 (編 P184～185 資料C)

(ガイドブック実践編「題材選定の仕方・教材の在り方」及び「年間指導計画の立案」参照)



年間指導計画を作成する際には、以下の点について留意する。

- ア 自校の外国語活動の目標は、外国語活動の目標・内容 (編 P150～152 資料A) を踏まえ、自校の学校教育目標、児童・地域・学校の実態に合わせ、指導の重点・努力点等を参考に設定する。
- イ コミュニケーションの場面 (挨拶、買い物、地域の行事等) やコミュニケーションの働き (気持ちを伝える、事実・情報を伝える等) を参考に活動を整理し、学校行事等に関連付けて学習できるように配列し、年間指導計画を作成する。

ウ 題材については、「児童の興味・関心」「他教科等の学習や学校行事等で扱う内容」「国際理解及び自国理解」との関連について留意し選定する。

エ 教材・教具については、テキストやその付属の絵カードやデジタル教材を活用するとともに、児童の意欲を喚起する実態に合った独自の教材の開発や工夫に努め、児童が主体的に学ぶ授業の充実を図る。

オ 外国語活動では、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の三領域について体験的に学ぶ。これら三領域別の目標と関連付けた学年毎の「学習到達目標」(CAN-DO リスト) (編 P153 資料B) を設定する場合は、体験的に学ぶことから「～する」の表現で作成する。

(2) 単元計画の立案 (編 P183,186 **資料D**)

(ガイドブック授業研究編I外国語活動「単元・授業構成上の留意点」(1)参照)

ゴール (本単元で目指す児童の姿) を明確にし、ゴールから逆算して、1時間ごとの目標を決め、活動を組み立てながら単元を構成していく (バックワード・デザイン)。

言語活動は「聞くこと」中心の活動から「話すこと」へ、段階的にゴールへ向かう構成とする。

(3) 1単位時間の授業計画 (編 P187 **資料E**)

(ガイドブック授業研究編I外国語活動「単元・授業構成上の留意点」(2)参照)

1単位時間の授業は、挨拶→ウォームアップ/導入/復習→中心となる活動→振り返り→挨拶が基本的な流れの例である。中心となる活動においては、「聞く活動」、「まねる活動」、「自ら発話する活動」へと段階的に組み立てるとよい。

(4) 評価

完成した年間指導計画は、学校行事や他教科等の学習内容または児童の発達の段階や興味・関心に応じて、見直しや修正を行う。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点 (解 P41, 42)

外国語活動における配慮として次のようなものが考えられる。

ア 音声を聞き取ることが難しい場合、音声のリズムやイントネーションを、教師が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表す。

イ 本時の活動の流れを黒板に記載する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点 (解 P36~38)

単元など内容や時間のまとまりの中で、以下の視点で授業改善を進める。

ア 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てる、学習したことを振り返るなど、自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。

イ 対話によって自分の考えなどを広めたり深めたりする場面をどこに設定するか。

ウ 児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。

(3) 「教科等横断的」な視点 (ガイドブック授業研究編I外国語活動「授業研究の視点④」参照)

他教科等や学校行事で得た知識や体験を、外国語活動の学習の中で適切に生かすために、相互の関連について検討し、指導計画に位置付ける。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点 (解 P42, 43)

学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブスピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

(5) 「道徳教育の充実」の視点 (解 P48, 49)

道徳教育の全体計画との関連、指導内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。

(6) 「外国語教育充実」の視点

ア 英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。

イ 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても理解を深めるようにする。

ウ コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。

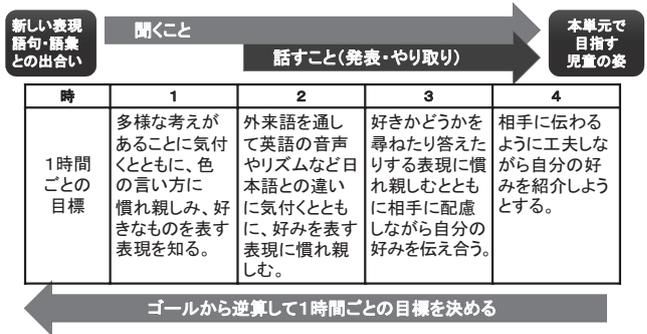
エ 児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。

オ 教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高める。

カ 言葉によらないコミュニケーション (ジェスチャーなど) の役割も理解させる。

キ 文字については音声によるコミュニケーションを補助するものとして扱う。

【第3学年 Unit 4 I like blue. すきなものをつたえよう】



第2 指導計画作成のための資料

資料C 第3学年 外国語活動 年間指導計画 例

※吹き出しは「P181 3の指導計画作成に当たった際の留意すべき事項」と対応している
 ※は、繰り返し学習することによって定着を図る表現
 ※主な活動例については…【L】聞くこと【S】話すこと（発音・やり取り）

時数	単元名	単元目標	主な活動例	表現例	新出語彙・語句例	既習表現・語彙例
1 2 単位 時間	Hello! あいさつをして 友達になろう	<ul style="list-style-type: none"> 世界には様々な言語があることを知り、挨拶や名前の言い方に関心し、 名前を言ったり挨拶をする。 相手に伝わるように工夫しながら名前を言ったり挨拶を交わそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の様々な挨拶を聞く。【L】 自分の名前を伝えて挨拶をする。【S】 “Hello”の声を聞いて、誰が言ったのか尋ねる。【LS】 	Hello. I am… Are you…? Are you…?	Hello. I am… Are you…? Are you…?	
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 挨拶や自己紹介などの基本的な表現を使うことを通して、英語でやり取りすることの楽しさを感じさせたい。</p>						
2 2 単位 時間	How are you? ごきげんいかが	<ul style="list-style-type: none"> 表現やジェスチャーの大切さや表す意味の違いに気付き、感情や状態を表す表現に関心し、 表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら挨拶をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ジェスチャー等を交えて自分の様子や状態を伝える。【S】 相手の感情や様子を見て、それにふさわしい対応ができるようにする。【L】 絵や写真の人物を見て、どんな様子なのか表現する。【S】 	How are you? I am… Here you are. Thank you.	感情や様子を表す表現 fine, sleepy, happy good, hungry, tired, sad, great 等	Hello. I'm… See you. Good bye.
<p>【3(3)】「教科等横断的」な視点 絵本、写真集、新聞の写真など、他教科等で用いた人の表情が豊かに描かれているものを使って、言葉のやり取りをすることもできる。 例 (ボスターの人物を指して) “Look at this. Is he happy?”</p>						
3 4 単位 時間	How many…? 数えてあそぼう	<ul style="list-style-type: none"> 1から20までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 相手に伝わるように工夫しながら数を尋ねたり答えたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「21を言ったら負け」ゲーム。【S】(ペアになって1人三つまで数字を言うことができる。21を言った方が負け)。 箱の中に怪しいボールを何個か入れて、いくつあるのか順番に答えて当てる。【LS】 	How many (apples) ? Ten apples. That's right.	many, 数 (1~21) marble, ball, pencil, eraser, ruler, crayon apple, strawberry, tomato, circle triangle, cross, stroke, yes, no, sorry pineapple, grape, peach, that, is, right	how, Hello. Hi. I'm Good bye. See you.
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 児童の表現は“How many apples?”とあるが、教師の発語は“How many apples are there?”のように、文で聞かせることで、高学年での外国語や中学校との接続を意識した活動となる。</p>						
4 4 単位 時間	I like… 好きなものをつたえよう 編 P183, 186 資料D 編 P187 資料E	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方があがることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語の趣に気付き、色の言い方や好きかどうかを尋ねたり答えたりする語や表現に関心し、 自分の好みを伝え合う。 相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなもの(色など)について話したり、答えたりする。【LS】 レストランのメニューやスーパースタシを使って、好きなものを言ってみる。【S】 相手の好きなスポーツを尋ねたり、自分の好きなスポーツを伝えたりする。【LS】 	I like (blue). Do you like (blue) ? Yes, I do. / No, I don't. I don't like blue.	like, do, don't, 色 (red, blue, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown) 飲食物 (ice cream, pudding, milk, orange juice) 野菜 (onion, cucumber green pepper, carrot) who, touch, rainbow スポーツ (soccer, tennis, baseball, swimming, basketball,)	Hello. Hi. I'm Good bye. See you.
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 相手意識をもって伝えることが重要 Aさん “I like soccer.” Bさん (Aさんを見て、「君はサッカーが好きなんだ」という思いを込めて) “You like soccer. I like badminton.”</p>						
<p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 教師が英語を話す際は、高学年や中学校との接続を考え、複数の表現が必要な場合は複数形を使って聞かせていきたい。 例 oranges, grapes, bananas</p>						

5 4 単位 時間	What do you like? 何が好き?	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声の違いに気がつき、身の回りの物の言い方や何が好きかを尋ねたり答えたりする語や表現に慣れ親しむ。 何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなものが好きなかを尋ねたり答えたりして伝え合う。【LS】 クラスの好きなもののランキングを決める。【LS】 	What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).	what, color, スポーツ (sport, volleyball, table tennis) 食べ物 (food, hamburger, pizza, steak, spaghetti, salad, cake, egg, rice ball, jam, noodle) 果物 (fruit, orange, grape, pineapple, peach, melon, banana, kiwi fruit, lemon) it, hint, 動物 (elephant, tiger, owl, raccoon dog) 昆虫 (dragonfly, grasshopper, spider, moth) nest	I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't.
6 5 単位 時間	What's this? これはなに?	<ul style="list-style-type: none"> 外来語と英語の違いに気がつき身の回りの物の言い方に慣れ親しむ。 クイズを出したり答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 色や形など質問しながらクイズに答える。【LS】 シルエットクイズ。【LS】 動物を折り紙で作って何の動物か尋ねたり答えたりする。【LS】 身の回りの物に関するクイズを作って相手に伝える目的をもって動作を交えながら尋ねたり答えたりする。【LS】 	What's this? Hint, please. It's (a fruit). It's (green). It's (a melon). That's right.	I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. That's right. No. Sorry. 数 (1-30) 果物、飲食物、動物、野菜、色、what is, please.	I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. That's right. No. Sorry. 数 (1-30) 果物、飲食物、動物、野菜、色、what is, please.
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【3(6)】「外国語教育の充実」の視点 前の単元に引き続き、繰り返し What を用いた文に慣れ親しむよう、この時期に設定した。What の表現については、日常会話の中でも繰り返し用いることで、高学年・中学校の外国語学習へとつなげていく。</p> </div>						
7 5 単位 時間	This is for you. カードをおくろう	<ul style="list-style-type: none"> 形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする語や表現に慣れ親しむ。 相手に伝わるように工夫しながら欲しいものを紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼントするカードを作るために欲しい色や形を尋ねたり答えたりする。【LS】 作成したカードを見て紹介する。【S】 身の回りにあるいろいろな形を見付けて表現しようとする。【S】 	What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.	a, for; big, small, 形 (square, rectangle, heart, star, diamond) bus, flower, 動物 (dog, cat, panda, mouse, bear)	I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. What (sport) do you like? How many...? Here you are. Thank you. You're welcome. 形 (circle, triangle, cross), 色, this you, are, 数 (1-20)
8 4 単位 時間	ALPHABET アルファベットとなかよし	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気がつき、活字体の大文字を識別し文字の読み方に慣れ親しむ。 相手に伝わるように工夫しながら自分の姓名の頭文字を伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の服装や持ち物の中からアルファベットを探してみる。 駐車場を表す「P」の表示など、学校の近くにあるアルファベットを集める。 文字のカードを使って自分の姓名の頭文字を伝え合う。【S】 	(Card) A), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	大文字 (A-Z) card, alphabet, please, here, thank, welcome, 数 (21-30) book, drum, fish, gorilla, hat, ink, jet, king, monkey, notebook, pig, queen, rabbit, sun, tree, umbrella, violin, watch, box, yacht,	I'm... I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. How many...? What (sport) do you like? Hint, please. big, small, are, 色、形、動物、果物、野菜、飲食物、数 (1-30)
9 5 単位 時間	Who are you? きみはだれ?	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語のリズムなどの音声の違いに気がつき、誰かと尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容が分かる。 絵本などの短い話を反応しながら聞くとともに相手に伝わるように台詞をまねて言おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせを聞いて、身の回りの物に関する簡単な語句や基本表現とそれを表すイラストなどを結び付ける。 	Are you...? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm... Who am I? Hint, please.	long, 動物 (cow, dragon, snake, horse, sheep, chicken, wild boar) 状態や気持ちを表す語 (shiny, scary, round, furry) 体の部位 (head, eyes, ears, nose, mouth, shoulders, knees, toes)	I'm... I like... Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. How many...? What (sport) do you like? Hint, please. big, small, are, 色、形、動物、果物、野菜、飲食物、数 (1-30)

大文字への慣れ親しみの活動を各単元のなかにも組み込むことで、文字の認識と理解を段階的に深めていく。

1 単元【4時間】の組み立て方例 3年生 **資料D** ※単元を通して繰り返し取り組みさせる活動

新しい表現・語句・語彙との出会い

第①時【L】好きな色を教えて 指導者の話を聞く

第②時【L】先生の好きなものと そうでないものを知ろう

第③時【L】好きなものを紹介しよう

第④時【L】自分の好みを見せて 自己紹介し合う

【L】「聞くこと」 ※練習内容も十分に聞かせる。

【S】「話すこと」 ※発表・やり取りをバランスよく経験させる。

資料C

第4学年 外国語活動 年間指導計画 例

※吹き出しは「P183の指導計画作成に当たった際の留意すべき事項」と対応している
 ※は、繰り返し学習することによって定着を図る表現
 ※は、繰り返し学習することによって定着を図る表現

時数	単元名	単元目標	主な活動例	表現例	新出語彙・語句例	既習表現・語彙例
1 2 時間	Hello, world! 世界のいろいろなことば であいさつをしよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、様々な挨拶の言い方に慣れ親しむ。 友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界のどの国の挨拶かを考える。【L】 世界の挨拶の文字を見て、どの国の文字なのか予想する。 友達に好きなものなどを伝えたりして挨拶をする。【LS】 	<p>Hello.</p> <p>Good morning/afternoon.</p> <p>I like….</p> <p>Goodbye. See you.</p>	<p>morning, afternoon, world</p>	<p>Hello. I'm….</p> <p>How are you? / I'm….</p> <p>I like….</p> <p>Do you like…? / Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>Goodbye. See you.</p> <p>気持ちを表す語、色、飲食物</p> <p>数 (1-30)、スポーツ、動物、野菜</p>
2 4 時間	Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動作や遊びの言い方や、遊びに誘う表現に慣れ親しむ。 相手に配慮しながら友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。 天気に合わせて遊びを決めたり提案したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Simon says game. 【L】 (先生や友達と言った動作を聞き取り、まねをするゲーム) 世界の天気をみんみんで予想する。【S】 天気とその天気に合わせた服装を結び外けて考える。【L】 	<p>How is the weather?</p> <p>It's sunny/rainy/cloudy/snowy.</p> <p>Let's ….</p> <p>Stand up. / Sit down.</p> <p>Stop. / Walk.</p> <p>Jump. / Run.</p> <p>Turn around.</p> <p>Touch your head.</p>	<p>動作 (stand up, sit down, jump, turn, walk, run, look, put) up, down, on, around, right, left, lets, play, hand, leg, outside, inside, 遊び (tag, jump rope, bingo, game) 衣類 (T-shirt, shorts, sweater, pants, raincoat, rain boots, gloves, boots)</p>	<p>I like….</p> <p>Do you like…? / Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>What sport do you like?</p> <p>Goodbye. See you.</p> <p>体の部位、色、動物、飲食物、スポーツ</p>
3 3 時間	I like Mondays. 好きな曜日は何かな?	<ul style="list-style-type: none"> 曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 相手に配慮しながら自分の好きな曜日を伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーを使って、自分の誕生日が何曜日か言ってみる。【S】 ある曜日の時間を聞いて、それが何曜日なのかを当てる。【L】 曜日によって放課後にすることを伝え合う。【LS】 	<p>What day is it?</p> <p>It's (Monday).</p> <p>Do you like Mondays?</p> <p>Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>I like Mondays.</p> <p>Who likes Mondays?</p>	<p>day, 曜日 (Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, Sunday)</p> <p>野菜 (mushroom, watermelon)</p> <p>飲食物 (soup, pie, sandwich) fresh</p>	<p>I like….</p> <p>Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>What sport do you like?</p> <p>it, is, 色, 動物, 飲食物, スポーツ</p>
4 4 時間	Do you have a pen? おすずめの文房具セットをつくらう	<ul style="list-style-type: none"> 文房具など学校で使う物や、持ち物を探したり答えたりする表現に慣れ親しむ。 文房具などの持ち物について尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に配慮しながら文房具などの持ち物について尋ねたり答えたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家にあるものを伝え合う。【US】 筆箱の中身の持ち物チェック。【LS】 カードを一枚持って、自分のカードとあったカードを持っているか伝え合う。【LS】 	<p>Do you have a pen?</p> <p>Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>I [have / don't have] (a pen).</p> <p>This is for you.</p>	<p>have,</p> <p>文房具 (glue, stick, scissors, pen, stapler, marker, pencil, sharpener, pencil case)</p> <p>身の回りの物 (desk, chair, clock, calendar)</p>	<p>Do you like…? / How many…? / Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>What sport do you like?</p> <p>形、色、スポーツ、動物、飲食物</p>

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
 ピクチャーカードを使った学習では、「touch something red.」のような指示をすることで、既習の「色」の表現について振り返らせ、理解を深める。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
 曜日の表現は他の単元でも繰り返し丁寧に聞かせることで、高学年や中学校での外国語との接続を図る。
 例 “Today is Tuesday. Do you have a science textbook?” のように、次の単元の “Do you have…?” の表現でも繰り返し扱うことができる。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
 ねらいを明確にするため、単元のなかで「動作の表現に慣れ親しむ活動」と「天気の表現に慣れ親しむ活動」の学習内容を各時間の活動で分けて行う。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
 「児童にとつて、曜日を話題にするのはどんなときなのか」ということを想定して活動内容を設定することで、実際に英語を用いて気持ちを伝え合うような場面設定を取り入れる。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
 野球のボールが描かれたカードを持った児童が“I have a ball. Do you have a bat?”と尋ねて、そのカードにあったカードを持っている人を探し活動を設定した。相手の持ち物を知りたい、という思いをもちながら、主体的に取り組ませる。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
 3年生で学習した「色や形の表現」を使って、“Do you have a red pencil?”などの表現に、繰り返し慣れ親しませる。

5 4 単位 時間	Alphabet アルファベットで文字 遊びをしよう	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付くとともに、活字体の小文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむ。 アルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの文字をヒントに単語当てクイズをする。 	Look, what's this? Hint, please. That's right. Sorry, try again.	小文字(a-z) letter, try again, a.m., p.m., bookstore, coffee, closed, donut, exit, juice, news, off, open, police, post, popcorn, restaurant, sale, taxi, telephone	What's this? How many(apples) Do you have...? Yes, I do. /No, I don't. I [have/don't have] a pen. That's right. Sorry, up, down, left, right, look 数 (1-60) 大文字 (A-Z)
6 4 単位 時間	What time is it? 今、何時	<ul style="list-style-type: none"> 時刻や生活時間の言い方や尋ね方について慣れ親しむ。 自分の好きな時間について尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に配慮しながら、自分の好きな時間について尋ねたり答えたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> イラストなどを参考に1日の生活の中で自分の好きな時間を伝え合う。【LS】 時間のメモリを入れた円グラフをもとに自分がその時間していることを伝え合う。【LS】 学校の近くにあるお店の開店時刻や閉店時刻を予想してみる。【L】 	What time is it? It's 8:30. It's homework time. How about you?	time, 数字 (40,50,60), about, 生活時間(wake up time, breakfast time, study time, lunch time, snack time, dinner time, homework time, bath time, bed time, dream time)	I like... what, is, it, 数 (1-30), スポーツ, 曜日
7 5 単位 時間	What do you want? ほしいものは何か?	<ul style="list-style-type: none"> 食材の言い方や欲しいものを尋ねたり、要求したりする表現に慣れ親しむ。 欲しい食材などを尋ねたり要求したり考えたメニューを紹介する。 自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に勧めたいオリジナルメニューを作ったり、買い物の場面で必要な食材について取りをす。【LS】 自分の家にあったらいいものをお互いに伝え合う。【LS】 	What do you want? I want (potatoes), please. How many...? Here you are. Thank you.	野菜 (potato, cabbage, corn) cherry, meat, pork, want,	What's this? It's... How many...? Do you have...? Do you like...? Yes, I do. /No, I don't. 野菜、果物、飲食物、数(1-60)
8 4 単位 時間	This is my favorite place. お気に入りの場所をしようかいしよう	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに教科名や教室名の使い方に慣れ親しむ。 自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について自分の考えを伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見せて、それはどの教室なのか当てたり、その場所がどこにあるのかを伝えたりする。【LS】 自分が気に入っている校内の場所についてイラストや写真を参考に自分の考えを伝えたり、その場所まで案内したりする。【S】 	Go straight. Turn (right / left) Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like music.	favorite, place, my, our, why, 学校、教室 (school, science, music, cooking, arts and crafts, gym, playground, principal's office, school nurse's office, entrance, library, teachers' office, school office, classroom, computer room, girls' room, boys' room) straight, teacher, boy, girl.	This is for you. I like... Do you like...? Yes, I do. /No, I don't. turn, right, left, スポーツ, 曜日
9 5 単位 時間	This is my day. ぼく、わたしの一日	<ul style="list-style-type: none"> 世界の子供たちの生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、日課を表す表現に慣れ親しむ。 絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせの中で聞いた、簡単な語句や基本的表現が表す内容をイラストなどと結び付ける。【L】 話の筋に合わせて、気に入ったページをグループで発表する。【S】 	I wake up (at 6:00) I eat breakfast (at 7:00). I go to school. I go home. I take a bath.	日課 (wash my face, go to school, go home, brush my teeth, put away my futon, have breakfast, check my school bag, leave my house, take out the garbage, take a bath, do my homework.)	What time is it? It's (8:30). I, you, up, go, do, a 数 (1-60) 動作, 曜日, 時間

小文字への慣れ親しみの活動を各単元のなかに組み込むことで、文字の認識と理解を段階的に深めていく。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
教師が児童に尋ねるときに、3年生で学習した「How many...?」の表現を使って「How many apples do you want?」のような表現を意識的に使用することで、高学年・中学校での英語学習への連続を図る。

【3(2)】「主体的・対話的で深い学び」の視点
黒板に家の絵を一つ描いて「This is your house. What do you want?」と尋ねて欲しいものを伝え合うなど、「自分なら何が欲しいか」ということを互いに伝え合うことで、相手の考え方を学んだり、自分の考えを伝えたりする。

【3(5)】「情報教育の充実」の視点
ICT機器等を活用し、世界の子供たちの様子に触れ、その多様性に気付かせる機会とする。

【3(6)】「外国語教育の充実」の視点
単元6「What time is it?」の単元との関連を意識して、繰り返し慣れ親しませる活動を工夫する。

資料D 単元計画（4時間）

※ 吹き出しは、「P181 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項」と対応している（※編P181 右上(2)単元計画の立案図参照）

時	目標(◆)と主な活動（【 】, ○）*【 ｛】＝誌面化されている活動	◎評価<方法>
1	<p>◆多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ、好きなものを表す表現を知る。</p> <p>○Hello Song 【Activity】自分のにじをかこう“My Rainbow” ・誌面に好きな色を塗り、自分の虹を完成させる。 【Let's Watch and Think①】 ・映像資料を視聴し、世界の子供たちの虹の絵を見て、それぞれの違いに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【3(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点</p> <p>視聴する前に、国の特徴、国旗などからその国の子供たちの虹を自分なりに想像しながら活動に取り組む。また、その考えを他者に広げたり、他者の考えを知り、自分の考えを広げたりする。</p> </div> <p>○シャッフル・ゲーム ○好きな色を教えて ・指導者が、自分の好きな色を挙げるなどして児童にも発話を促し、好きなものを表す表現に出合わせる。 【Let's Listen①】 ・誰が何色を好きか聞いて線で結ぶ。 【Let's Chant】I like blue.(①色編) ○Goodbye Song</p>	<p>◎多様な考え方があることに気付いている。(行動観察、振り返りカード分析)</p> <p>◎色を聞いたり言ったりしている。(行動観察、振り返りカード点検)</p>
2	<p>◆外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付くとともに、好みを表す表現に慣れ親しむ。</p> <p>○Hello Song 【Let's Sing】The Rainbow Song</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【3(6)「外国語教育の充実」の視点</p> <p>1時間の中で長く教えるのではなく、少しの時間でも単元を通して何度も繰り返し、毎時間、聞かせることで、児童に外国語特有の音声やリズムに慣れ親しませる。</p> </div> <p>○カラー・タッチ・ゲーム ○先生の好きなものとそうでないものについて話し、児童が I [like/don't like] ～.の意味を分かるようにする。 【Let's Listen②】 ・音声を聞いて登場人物の好きなスポーツや、そうでないスポーツの番号を書く。 ○Who am I? ・好きなものとそうでないものをヒントとして聞かせ、校内の先生の誰かを当てさせる。 【Let's Chant】I like blue.(②スポーツ編) ○カード・デスティニー・ゲーム ○Goodbye Song</p>	<p>◎英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付いている。(行動観察、振り返りカード分析)</p> <p>◎好みを表す表現を聞いたり言ったりしている。(行動観察、振り返りカード点検)</p>
3	～誌面の都合上、省略～	
4	<p>◆相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。</p> <p>○Hello Song 【Let's Sing】The Rainbow Song 【Let's Chant】I like blue.(①～③)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【3(4)「社会に開かれた教育課程」の視点</p> <p>地域の人やゲストティーチャーにも自己紹介するなど、話し手としての意識を高める。</p> </div> <p>【Activity】 ・自己紹介シートを作成し、自分の好みを交えて自己紹介し合う。 ○Goodbye Song</p>	<p>◎相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介している。(行動観察、ワークシート・振り返りカード点検)</p>

資料E 指導案1 / 4 (1単位時間の計画)

目標 多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ、好きなものを表す表現を知る。

○本時の展開 (1/4) ※ 吹き出しは、「P181 3の指導計画作成にあたっての留意すべき事項」と対応している

時間	児童の活動 *【 】=誌面化されている活動	指導者活動と使用英語例 ◎評価<方法>
2分	挨拶をする。	・全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。
3分	○Hello Song	・児童と一緒に歌う。
10分	【Activity】 自分のにじをかこう “My Rainbow”	<p>【3(1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点</p> <p>① 挨拶(Hello Song) ② チャンツ又は歌 ③ Activity 1 ④ Activity 2 ⑤ 振り返り ⑥ 挨拶(Goodbye Song) その日の授業の流れを、メニューのようにあらかじめ提示しておくことも効果的である。</p>
	<p>【3(3)「教科等横断的」な視点</p> <p>国際理解教育の学習内容を横断的に利用しながら、児童に世界での色の捉え方や色の特徴などの情報を与え、より深い学びを目指す。【情報活用能力】</p>	
5分	【Let's Watch and Think①】 ・映像資料で、世界の子供たちが虹を描く様子などを観察し、自分たちの作品との相違点や共通点に気付く。	<p>・海外ではどんな虹が見えるかなど、児童の興味・関心を高めながら映像資料の視聴につなげ、自分たちの作品との違いや共通点に気付くよう言葉かけをする。</p> <p>◎多様な考え方があることに気付いている。 (行動観察、振り返りカード分析)</p>
	<p>【3(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点</p> <p>視聴する前に、国の特徴、国旗などからその国の子供たちの虹を自分なりに想像しながら活動に取り組む。また、その考えを他者に広げたり、他者の考えを知り、自分の考えを広げたりする。</p> <p style="text-align: center;">~埼玉県『主体的・対話的で深い学びの実現 6則』より~</p> <p style="text-align: center;">ペアやグループ活動を通して互いに学び合い、他者と協働することによって、自分だけの学習では深められない多様な見方・考え方を学ぶ。</p>	
5分	○シャッフル・ゲーム ・指導者とともに色を確認する。 ・指導者が指したカードが何色か当てる。	<p>・シャッフル・カードをすることを告げる。児童が描いた虹の色の中から4枚程度を黒板に貼りながら、カードの色を児童と確認する。</p> <p>◎色を聞いたり言ったりしている。(行動観察、振り返りカード点検)</p>
5分	○好きな色を教える ・指導者の話を聞いて、好きなものを表す表現を知る。 ・指導者の質問などに応じて、色を言う。	<p>・黒板にほかの色も加え、言い方を確認する。</p> <p>・自身の洋服などの色を指し示しながら、What color is this? I like ~. と好きな色を言い、好きなものを表す表現に出合わせる。黒板の色カードを指しながら児童に I like ~. Yes? No? などと投げかけ、発話を促す。児童の答えに応じて、児童を指して You like ~. 自身を指して I like ~. と何度も繰り返して言い、児童に I like ~. You like ~. の表現を何度も聞かせるようにする。</p>
4分	【Let's Listen ①】 ・誰が何色を好きかを聞いて線で結ぶ。	・何色が好きかを予想させ、それを確かめるために音声を聞かせるようにする。
4分	【Let's Chant】 I like blue. (①色編)	・児童と一緒に言う。
5分	・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・児童の英語を使おうとする態度についてよかったところを称賛する。
	<p>【3(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点</p> <p>学習の終わりには、自分自身の学習の成果を振り返り、自身の変容を自覚できるようにする。</p> <p style="text-align: center;">~埼玉県『主体的・対話的で深い学びの実現 6則』より~</p> <p style="text-align: center;">「何ができるようになるか」、教員は子供たちの変容(伸び)を見取ること。外国語活動なので技能面に偏ることなく、児童の主体性の面も肯定的に自己評価させる。</p>	
2分	○Goodbye Song	・児童と一緒に歌う。

第8章 総合的な学習の時間

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

今回の学習指導要領改訂で、目標が新たに示された。

- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
 - (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
 - (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の指導では、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるようにすることが大切である。

2 指導計画作成の一般的な手順 ※次項の【図1】を参照。

指導計画には、全体計画と年間指導計画とがある。全体計画は、総合的な学習の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものである。年間指導計画は、全体計画を踏まえ、学習活動や実施時期、時数等を示すものであり、具体的には1年間の時間的な流れの中に単元を位置付けて示すとともに、必要に応じて他教科等との関連も書き入れていく。目標及び内容、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画等については、全体計画と年間指導計画のどちらかにおいては、明示する必要がある。

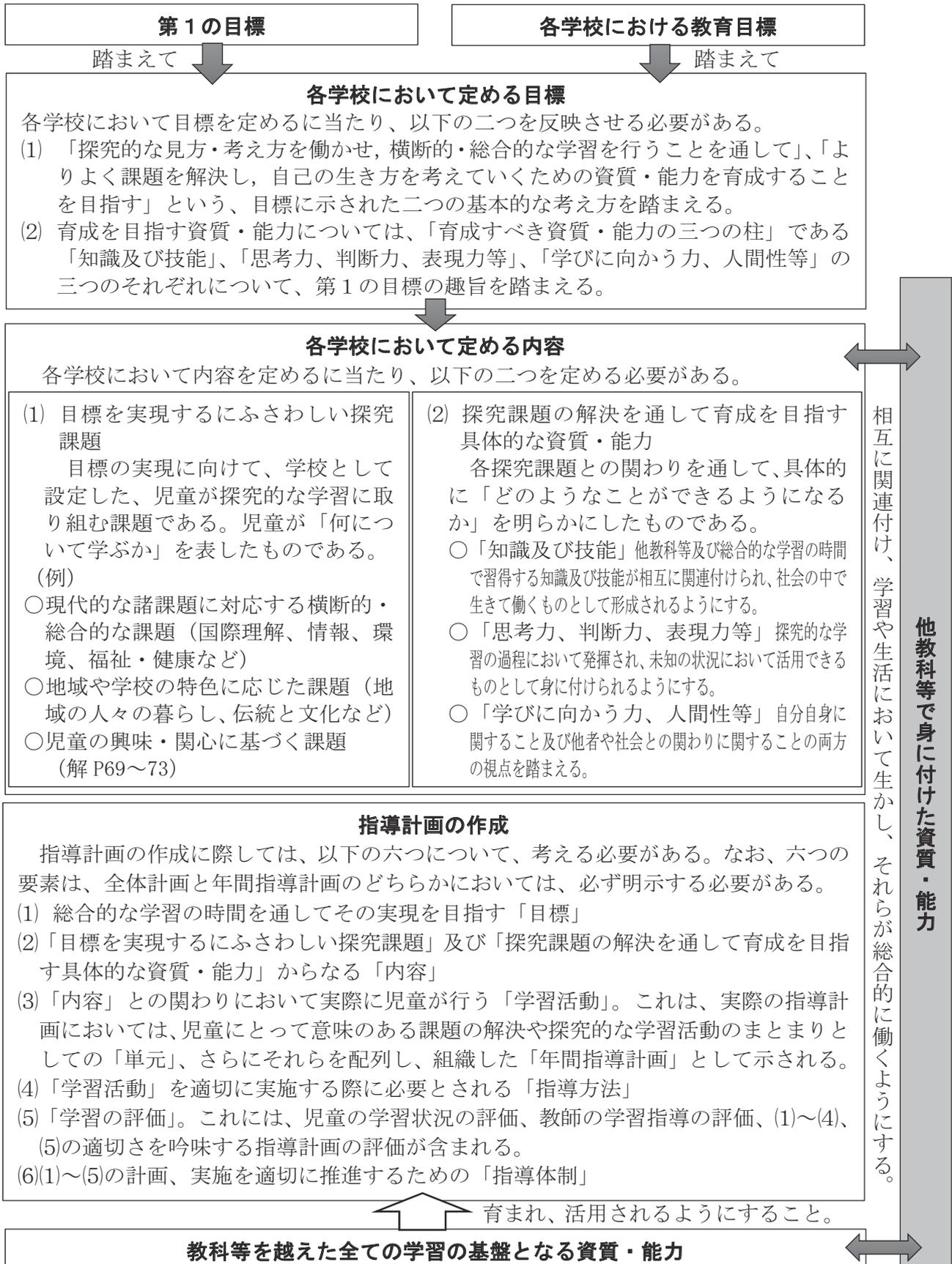
3 指導計画作成に当たって留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
障害等のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
探究の過程（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を一層質的に高めていくこと。「主体的な学び」には、課題設定と振り返りが重要であること。「対話的な学び」には、多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かうことが欠かせないこと。多様な他者と対話することは、①他者への説明による情報としての知識や技能の構造化、②他者からの多様な情報収集、③他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待、といった価値があること。このように、探究的な学習の過程を一層質的に高めていくことが、「深い学び」につながる。
- (3) 「教科等横断的」な視点
他教科等及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。その際、言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を重視すること。
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
学校の教育目標を教育課程に反映し具現化していくに当たっては、これまで以上に総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを行うこと。また、年間指導計画の中に児童の学習活動を支援してくれる団体や個人を想定し、学習活動の深まり具合に合わせて、いつでも連携・協力を求められるよう、日頃から関係づくりをしておくこと。さらに、学校と保護者とが育成を目指す資質・能力について共有しておくこと。

(5) 「道徳教育の充実」の視点

道徳科と総合的な学習の時間は、それぞれの目標、内容を有するものであるが、どちらも児童が自己の生き方を考えることにつながるものであること。児童の道徳性がより発展的、調和的に育っていくよう、道徳科と総合的な学習の時間における道徳教育との関連を図り、全体として道徳教育を充実していく必要があること。

【図1】



第2 指導計画作成のための資

1 全体計画

ここでは、全体計画作成する上での具体的な例を示す。



2 年間指導計画

「幼稚園児との交流と幼稚園児に関わる人々の思い」「身近な環境問題と自分たちの暮らし」～児童の興味・関心に基づく課題～

〇〇小学校 第4学年 年間指導計画 『みんな なかよし プロジェクト』『〇〇小 リサイクル部』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力
 ・課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。
 ・体験を通して得た情報や、他者からの情報を基にして自ら課題を設定できる。
 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むことができる。

月	単元 (時間)	学習過程	○活動名 ・活動内容	○思考ツール ▲各教科との関連 ★地域との連携 □指導形態
4	みんな なかよし プロジェクト (40)	課題	○幼稚園との交流会を計画しよう(1回目) ・〇〇幼稚園との今までの交流を振り返り、これからの活動に見通しをもつ。	□全体 ○ウェビングマップ(関連付ける)
5		情報整理	・交流会の計画を話し合ったり、遊び方を調べたりする。	□全体・小グループ
		整理	・グループで話し合ったことを全体で話し合い、情報を共有する。	○ボックスチャート(焦点化する)
		まとめ	○幼稚園と交流会をしよう(1回目)	□全体・個人
		整理	・〇〇幼稚園に行き、交流会を行う。	□全体・小グループ
		課題	・交流会の内容や遊び方について振り返り、整理・分析することで成果と課題を明確にする。	○PMI(多面的に見る)
6		情報整理	○幼稚園との交流会を計画しよう(2回目) ・園児のことを理解するために、幼稚園での生活の様子を見学する。	□全体 ★〇〇幼稚園
7		整理	・見学したことを基に、自分達の交流会のテーマを考える。	□全体
		まとめ	○幼稚園と交流会をしよう(2回目)	○ピラミッドチャート(構造化する)
		課題	・見学したことやテーマを基に、交流会の内容や遊びの計画を話し合い準備する。	□全体・小グループ
9	〇〇小 リサイクル部 (30)	情報	○幼稚園と交流会をしよう(2回目) ・〇〇幼稚園に行き、交流会を行う。	□全体・個人 ★〇〇幼稚園
10		整理	・交流会の内容や遊び方について振り返り、整理・分析し成果と課題を明確にする。	□全体・小グループ
		まとめ	○幼稚園との交流会を計画しよう(3回目) ・交流会について、幼稚園の先生の思いや園児の思いをインタビューする。	○PMI(多面的に見る)
		課題	・インタビューしてきた思いと自分達の気持ちを比較する。	□全体 ▲国語(インタビュー)
10	自分達でやってみよう3R活動(15)	整理	・全体で話し合ったことを基に、交流会の内容や遊びの計画を話し合い準備する。	★〇〇幼稚園
11		まとめ	○幼稚園と交流会をしよう(3回目) ・小学校に園児を招待し、交流会を行う。	□全体・小グループ ○ベン図(比較する)
12		課題	・これまでの交流を時系列で振り返る。	□全体・個人
1	〇〇小 リサイクル部 (30)	情報	・振り返ったことを基に、人との関わり方を見直していく。	□全体・個人 ★〇〇幼稚園
2		まとめ	○「もったいない」から〇〇小を見直そう ・学校から出るゴミの種類や量を調べ、グラフや表に表し、その結果や処理の仕方について話し合い、これからの活動に見通しをもつ。	□全体 ▲社会(ごみの処理と利用)
3		課題	○3Rについて調べる ・話し合ったことを基に、パソコンや本、資料を使い、3Rについて調べる。	□個人 ▲社会(ごみの処理と利用)
1	紹介しよう3R活動(15)	整理	・調べたことから自分達にできる3Rについて話し合い、計画する。	□全体・小グループ ○座標軸(分類する)
2		まとめ	○3Rをやってみよう ・学校でのリデュースやリユースに関係したポスターを作ったり、学校から出たゴミを使い、リサイクル製品を作ったりする。	□個人・小グループ
3		課題	・作ったリサイクル製品やポスターなどを紹介し合う。	▲図工(身の回りの材料を使う)
2	紹介しよう3R活動(15)	情報	・紹介し合ったことを振り返り、整理・分析し成果と課題を明確にする。	□全体 ▲国語(説明文)
3		まとめ	○リサイクルギャラリーを計画しよう ・大学の先生や環境センターの人にインタビューをする。	○PMI(多面的に見る)
4		課題	・インタビューしたことを基に、リサイクルギャラリーを計画したり、ギャラリーに展示するリサイクル製品などを作ったりする。	□全体
3	紹介しよう3R活動(15)	まとめ	○リサイクルギャラリーをしよう ・自分たちの作ったリサイクル製品を地域の人たちに紹介する。	★大学の先生 ★環境センター職員
4		課題	・これまでの取組を時系列で振り返り、今後の生活の仕方を考える。	□全体・個人 ▲国語(インタビュー) ▲図工(身の回りの材料を使う) □全体 ▲国語(説明文) □全体

「食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者」～地域や学校の特色に応じた課題～

〇〇小学校 第5学年 年間指導計画 『〇〇まち探検隊～すごいぞ〇〇の野菜』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

- ・探究課題に対して多面的な視点で探究活動を行うことで、地域の特徴やよさに気付き、探究課題に対する自分なりの概念形成をすることができる。
- ・食をめぐる問題とそれにかかわる地域の農業や生産者について、その努力や工夫に気付くことができる。
- ・調査して得た情報を基に、比較・分類等の思考を駆使して整理・分析することができる。

月	単元 (時間)	探究の 過程	〇活動名 ・活動内容	〇思考ツール ▲他教科等との関連 ★地域との連携 □指導形態	
4	知ってるっ！〇〇町の野菜 (22)	課題 情報 整理	〇地域の野菜って、知っている？ ・地域の野菜について知っていることや印象を話し合う。 ・地域の専門家の講話を聞き、自分たちの地域で作られている野菜について知る。 ・ボックスチャートを使い、聞いた内容と疑問に思ったことを整理する。	□一斉 ★地域の野菜農家のボランティア □小グループ 〇ボックスチャート (分類する) □小グループ	
5		情報 整理	〇地域の野菜を植えよう・調べよう ・地域の専門家に教わりながら、野菜の植え付けを体験する。併せて、植え付けの体験について記録をし、感想も加えてファイリングする。	★地域の野菜農家のボランティア	
6		情報 情報 情報	・毎日の世話について、方法や当番の仕方などを話し合い、世話を開始する。 ・パソコンや図書などを使って野菜の育て方を調べ始める。	▲理科 (植物の成長の条件) □一斉・個人	
7		整理 まとめ	・毎日の観察日記を続けながら、日々の様子や育成の問題点について調べたことを教室の「お知らせコーナー」に掲示したり帰りの会で発表したりして、情報の共有をする。 ・ファイリングした活動の記録を見ながら振り返り、調べたことや活動したことをミニレポートにまとめる。	〇二次元表 (比較・分類する)	
9		整理 課題 整理	・お互いのミニレポートを読み合い、活動や情報の共有をする。 ・今までの活動で明らかになった問題点や課題を確認する。 ・ウェビングマップを作成し、イメージを形にしたり広げたりする。	□個人・全体 〇ウェビングマップ (関連付ける)	
9		育った！調べた！味わった！〇〇町の野菜 (24)	整理 課題	〇地域の野菜のよさって何だろう？ ・今までの振り返りから、個人でやってみたいことを決定する。 ・個人の課題を集めて、全体で解決したいことややってみたいことを出し合い、これからの共通の課題を決定する。	□個人 〇ボックスチャート (比較する) □一斉
10			課題 情報	・個人の希望する課題ごとにグルーピングを行う。 ・野菜の世話を続ける上で問題になっていることを出し合い、一つ一つ解決するための手段を考える。	□小グループ
11			情報 整理 情報 整理 まとめ	〇もっとよさを知るために ・地域の農家、専門家、JAの方にインタビューをしたり、実際に野菜の様子を見てももらったりして、解決策を調べる。 ・地域の野菜についての統計資料を収集する。 ・育てた野菜の調理法を調べ、調理して試食する。 ・調べてきた情報をまとめ、目的にそって取捨選択する。 ・中間発表として今までの活動をまとめ、発表の準備をする。	□小グループ ★地域のJA・近隣の農家 ▲理科 (植物の発芽、成長、結実) ▲算数 (資料の分類整理) ▲家庭科 (調理の基礎) □小グループ (栄養教諭との連携)
12			整理 情報 課題	〇伝えてみよう！地域の野菜のよさ ・発表をお互いに見合いながら、よさが伝えられているか相互評価をする。 ・地域の人を招いて、発表についてアドバイスを頂く。 ・相互評価や地域の方のアドバイスを整理し、これからの課題を考える。	□パビリオン形式の発表 □一斉・小グループ
12	すごいぞー！知ってるっよー〇〇町の野菜 (24)		課題	〇もっとよさを伝えるために ・中間発表の振り返りから、さらに掘り下げる課題を設定する。 ・地域の野菜のよさをよりよく発信できる方法を考える。	□小グループ 〇XY軸 (見通す)
1			情報 整理 まとめ	〇まだまだあるぞ！地域のいいところ ・さらに深めたい課題を、訪問や体験活動なども加えて再調査する。 ・調べて分かったことや体験してよかったことを、壁新聞の掲示や帰りの会の発表で共有し、グループ同士で情報を補完し合う。	□小グループ ★地域のJA・近隣の農家 ▲社会 (我が国の農業と食料生産)
2		整理 まとめ	〇PRすることを選びぬこう ・地域のよさ、地域の野菜のよさに焦点をあてて、情報を整理する。 ・発表パネルや発表原稿を準備する。効果的なPR方法も考える。	□小グループ 〇ピラミッドチャート (焦点化する) ▲国語 (資料を用いた説明)	
3	表現 整理 課題	〇広めよう！地域の野菜のすごいところ ・本発表を行い、保護者や今までお世話になった地域の人たちに発信する。 ・アンケートで保護者や地域の人たちの意見を収集し、分析する。 ・野菜を通して発見した地域のよさと、自分たちがどう地域に関わっていくかについて考える。	□パビリオン形式の発表 □一斉・小グループ □個人 ▲国語 (まとめたことについての討論)		

「安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々」～横断的・総合的な課題～

〇〇小学校 第6学年 年間指導計画 『知ろう！守ろう！わが町の安全』

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力
 ・探究課題に対して多面的な視点で探究活動を行うことで、地域の特徴やよさに気付き、探究課題に対する自分なりの概念形成をすることができる。
 ・安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々について、その努力や工夫に気付くことができる。
 ・探究的な学習を基に、「自分にできることは何か」の視点をもって活動したり、自分の思いや考えを振り返り今後の自分について考えたりすることができる。

月	単元 (時間)	探究の 過程	〇活動名 ・活動内容	〇思考ツール▲他教科等との関連 ★地域との連携 □指導形態
4	地域の安全について知ろう (22)	課題 情報	〇地域の危険なところ、どこだろう？ ・地域の危険箇所について、防犯、交通の面から知っていることや印象を話し合う。 ・地域の防犯ボランティアの話聞き、地域の安全を守る取組について知る。	□一斉 〇ボックスチャート(分類する) ★学校応援団・地域の防犯ボラン ティア
5		情報 整理	・防犯や交通安全の基礎的な知識をインターネットや図書で調べる。 ・地域を探索し写真を撮り、防犯・交通安全面での注意箇所を簡易マップに書き込む。 ・地域の警察にマップや写真を見てもらい、アドバイスを受ける。	□小グループ ▲社会(地域の安全を守る諸活動) ★地域の警察署
6		整理 まとめ	・調べたことを出し合い、警察署のアドバイスを参考に重要な情報を選別する。 ・グループで活動したことを個人で安全マップにまとめる。	□小グループ・個人
7		整理 まとめ	・お互いの安全マップを読み合い、活動や情報の共有をする。 ・今までの活動で明らかになった問題点や課題を確認する。	□小グループ 〇フィッシュボーン (構造化する)
9		課題	・フィッシュボーンを活用し、課題点とそれに対する調査内容をまとめる。	
9	みんなを守るまちのしくみって何だろう？ (24)	課題	〇もっと安全について考えてみよう ・既習の知識を生かして、防犯や交通安全以外の他の危険について出し合う。 (自然災害：地震、水害、落雷など)(人為的災害：火災など)	□一斉 〇ウェビングマップ (関連付ける)
10		課題 課題	・防犯・交通安全も含めて、さらに個人で追究したいことを決定する。 ・個人の課題を集めて、全体で解決したいことや追究したいことを出し合う。	□個人 □一斉 □小グループ ▲特活(事件や事故、災害等か ら身を守り安全に行動する こと)
		情報 整理 情報 情報	〇地域の安全への取組を調べよう ・基礎的な知識を下調べして、関連する新聞記事や書籍資料を集める。 ・地域の防災マップをもとに探索し、気付いたことや疑問点を持ち寄る。 ・災害への対策についての講話を、地域の防災課の職員から聞く。 ・起震車体験や煙体験など、より実践的な防災訓練を体験する。 ・消防署や警察署にインタビュー(直接・電話・メール)をし、疑問点を解決する。	□一斉 ★消防署・防災センター等 □小グループ □小グループ
		整理 まとめ	〇地域の取組から、防犯や防災について考えよう ・小グループで調べてきた情報をまとめ、自分たちにとって関わりが高い順に重要度を 決め、取捨選択する。 ・パソコンのワープロ機能で、今までの活動をレポートにする。	〇ボックスシート(順序付ける) ▲国語(調べたことをまとめて報 告する)
11		まとめ 課題	〇お互いの取組を共有しよう ・お互いのグループのレポートを読み合い、意見交換をする。 ・他のグループの意見をもとに、現状の課題点を考える。	□パピリオン形式の発表 □一斉・小グループ
12	やってみよう！わたしたちのまじわり (24)	整理 課題 課題	〇わたしたちにできることは何だろう？ ・意見交換をもとに、自分たちができる安全対策について考える。 ・実践計画を立て、交渉が必要なところに連絡をする。 ・ネットにかかわる危険など、新たな課題について出し合う。	□小グループ 〇XY軸(見通す) 〇フィッシュボーン(前出に加筆)
1		情報 まとめ 情報 整理	〇試してみよう、わたしたちにできること ・課題ごと(防犯・交通安全・自然災害など)に日々実践してみることや体験できる ことに取り組み、分かったことや感じたことをまとめる。 ・ネットの危険性について、外部講師の話聞く。 ・今までの取組を、「わかったこと」「みんなに知っておいてもらいたいこと」「自分た ちが体験したり実践したりしたこと」「みんなとこれからできること」の四つの視点 に立って整理し分類する。	□小グループ □一斉 ★外部講師(SNS業者) □小グループ 〇ピラミッドチャート (焦点化する) ▲国語(調べたことをまとめて報 告する)
		2	まとめ	・活動のまとめをビデオで撮影し、保護者や他の学年に発信する。 ・校区内の危険箇所について注意を喚起するポスターを作り、校内に掲示する。
3		整理 まとめ 課題	〇続けていこう！わたしたちにできること ・発信した相手にアンケートやインタビューをして、取組について改良すべき点や修正 点、継続する課題についてXチャートを使って整理する。 ・今までのお互いの取組について、実践という視点で相互評価し合う。 ・自分にとっての地域と安全について考え、これから継続していく取組や意識していく ことを確かめる。	〇Xチャート(分類する) □個人

3 単元計画作成のポイント

(1) 単元計画作成の基本的な考え方

総合的な学習の時間では、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。学習活動の展開においては、育成を目指す資質・能力が育まれるように、児童が自ら課題を解決する過程を想定して単元の計画を立てなければならない。

(2) 単元計画作成の留意事項

〈児童の関心や疑問をとらえ、単元計画につなげていくための三つの留意点〉

ア 児童の関心や疑問は、その全てを本人が意識しているとは限らず、無意識の中に存在している部分も多いと捉えること。(解P95)

イ 児童の関心や疑問とは、児童の内に閉ざされた固定的なものではなく、環境との相互作用の中で生まれ、変化するものと捉えること。(解P95)

ウ 児童にとって切実な関心や疑問であれば何を取り上げてよいわけではなく、総合的な学習の時間において価値ある学習に結びつく見込みのあるものを取り上げて単元を計画すること。(解P96)

〈児童主体の学習活動の中で、資質・能力を育成するための二つの留意点〉

ア 学習の展開における児童の意識や活動の向かう方向を的確に予測することである。そのためには、まず児童の立場で考えること。次に複数の教員で予測を行い、意見が異なった点については慎重に検討すること。また、タイプの異なる児童を想起し、「この児童であればこの場面ではこう考えるのではないか」などと、可能な限り具体的に即して丁寧に予測することなどが重要である。

イ 十分な教材研究をすること。総合的な学習の時間においては、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりを基に単元を構成するので、その活動の過程において取り扱う内容は一つとは限らない。一つの単元の中で複数の内容が見込まれることも考えられる。したがって教材研究においても、できるだけ幅広く拡散的に思考を巡らせていくことが重要である。

(3) 単元計画としての学習指導案

〈1単位時間の指導計画の作成について〉

単元の指導計画を基に、他者と協働して問題解決したり、言語により分析しまとめたりするなどの学習活動を工夫し、自己の考えがもてるようにする。特に、課題設定の場面で見通しやゴールのイメージをもつこと、整理・分析場面で考えるための技法を活用すること、振り返りにより変容を自覚し次に生かすことなど、主体的・対話的で深い学びを実現するために探究のプロセスを一層重視する。

〈単元の計画を具体的に表現するために学習指導案に位置付ける項目〉

ア 単元名

児童の学習の姿が具体的にイメージでき、学習の高まりや目的が示唆できるような単元名にすることが大切である。

イ 単元目標

各学校の目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成することが大切であり、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示す必要がある。

ウ 児童の実態

目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握することが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明記することが必要である。

エ 教材について

教材とは、児童の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことであり、単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

オ 単元の展開

目標を実現するのにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力、児童の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。

単元の学習を通して、獲得させたい「概念的な知識」、期待する「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の伸長を明確にし、児童の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう単元を構想しなければならない。

4 単元計画例

(1)主体的・対話的で深い学びの実現を図る視点から指導を工夫した例

○ 単元名「ぼくらの商店街、パワーアップ大作戦！！」(第3学年) 4月～3月 (70時間)

○ 単元目標

- ・商店街との関わりを通して、商店街の歴史や変化、店員・客の行動や気持ちを解釈し、学習の筋道を立てることができる。 【知識及び技能】
- ・情報収集した事柄を基に、新しい概念が形成され、それに基づいてよりよい解決をしようと考え、判断し、自分なりの表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・人との関わりを通して、よりよい解決をしようとしたり、生活に結び付けて考えたりするとともに、自己の成長に気付くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

○ 児童の実態 (省略)

○ 教材について

正門から駅までの500mの間に個人店がある。2年生の生活科で町探検をしているため存在は認識しているが、商店街に対してあまり関心がなく、自分の住んでいる街に対して意識が低い。そこで、自分の住んでいる町にある商店街を学習することを通して、地元のすばらしさを実感し、自分の住んでいる町に誇りをもち、地元へ愛着がわくことを願い、本単元を設定した。

1年間同じテーマで学習を進めていくためには、1年間もち続ける課題を子供たち自身で見つける必要がある。課題を見付けるために試行錯誤させ、子供たちの納得いく課題に出会わせるようにする。また、グループで店を担当することで情報の広がりをつねらった。そして、自分なりの学習の筋道が得られるように、活動の後には必ず話し合いを設定し、学びを深めるようにする。

○ 単元に関する具体の評価規準 (省略)

○ 指導計画 ※「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現

探究の過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価 (省略)	時数
	○オリエンテーション ・生活科で商店街に行ったことがある。	・自分で決めて自分で活動する学習であることを伝える。	1
課題	○商店街について話し合う。 ・2年生の時に勉強したから知っている。	・本小単元は、課題を見いだすための学習であることを教師が意識する。【3(2)】	5
情報	○本当に知っているといえるのか確かめよう ○商店街を知っていると言えるのか確かめるために、町探検の活動を行う。 ・駄菓子屋やケーキ屋は知っている。 ・行ったことはないけど、見たことがある。	・活動前に目的を明確にし、活動を通して集めた情報を基に話し合いを行う。話し合う活動では、感じたこと考えたことを共有し、次の活動の方向性が見えるようにする。【3(2)】	
整理	○町探検で気付いたことを話し合う。 ・店の位置が正しくわからない。 ・知らないお店があった。お客が少ない。	・年間を通して、授業後に振り返りカードを記入し、学習の軌跡を残す。【3(2)】 ・事前に商店街の店舗数を把握する。	
表現	・地域の人は商店街を利用しているのかな。	・地図にまとめて商店街を知っていると見えるのか気付けるようにする。【3(3)】	
課題	○地域の人がどれくらい商店街を利用しているか調べよう	・本小単元は、課題を見いだすための学習であることを教師が意識する。【3(2)】	9
情報	○どのような方法で調べるか話し合う。 ・アンケートだったら自分たちできそう。 ○地域の人たちが、どのくらい商店街を知っているかアンケート調査を行う。 ・家が遠い人は使っていないと思う。	・アンケートは大人用と子供用の2種類作ることで商店街を多面的に捉え、課題を見つけやすいようにする。【3(4)】 ・支援を要する児童の意欲を高めるために、アンケート用紙を1人1枚担当できるように配慮する。【3(1)】	
整理	○集計を表や棒グラフに整理する。 ○結果から読み取れることを話し合う。 ・地域の人は大型店を利用し、商店街を利用していないことが分かった。	・調査結果から読み取れたことを個人で付箋に書き、グループ発表で考えを広げる。キーワードを見付けながら課題に対するまとめが出るようにする。まとめから、さらに調べたいことができるようにする。【3(2)】	
表現	・お店の人は知っているのかな。 ・商店街の人に伝えなければならない。		

<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>結果を伝え、商店街をもっと知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人はお客さんが来ないことをどう思っているのか詳しく知りたいな。 <p>○調査結果を伝え、お店の人の考えを知るために座談会を開き、商店街についての情報をさらに集める活動をする。</p> <p>○商店会長の話を聞いて、分かったことや感じたこと等話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はにぎやかだった。今とは全然違う。 ・お店の人は全て知っていた。 <p>・お客さんをとられてしまい、かわいそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何とかしたい。 ・お客さんを取り戻すために自分たちは何をすればいいのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この小單元では、見つけた課題をより自分事にするのを教師が意識する。【3(2)】 ・商店会長には事前に昔の商店街の様子を話してもらおうようお願いし、今の商店街と比較できるようにする。【3(4)】 ・前回の調査活動で感じた自分たちの思いとお店の人の気持ちが同じであることに気付くような話合いの流れにする。【3(2)】【3(5)】 ・座談会から店の工夫を想起し、自分たちで見つけた課題を解決するための方法に注目できるようにする。【3(2)】 	<p>5</p>
<p>単元の課題：にぎやかな商店街を取り戻すために、パワーアップさせよう</p>			
<p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○お店がしている集客の工夫を調査する。</p> <p>お客さんを取り戻す方法をみつけよう</p> <p>○夏休み中の調査結果を基に、課題を解決するための方法を出し合う。</p> <p>○夏休みに見つけた方法を分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「商店街ならではの方法」「自分達でできる方法」を軸に整理できそう。 ・お店の人と相談しないとできないものもあることに気が付いた。 ・その地域ならではの工夫がある。 <p>・お店の人に選んでもらったほうがいい。</p>	<p>(夏休み中の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、課題解決のための方法を決める学習であることを教師が意識する。【3(2)】 ・夏休みに情報収集することで、他地域との比較から意見の広がりをもてるようにする。その土地ならではの工夫があることに気付くことをねらう。【3(4)】 ・自分たちで選んだ方法について、お店の人に相談することで、相手意識が芽生えるようにする。【3(5)】 	<p>4</p>
<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>お店を知って、パワーアップさせよう</p> <p>○インタビューのための準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店を詳しく知るために質問を用意しておこう。名刺を渡そう。 <p>○お店のことを知るために、インタビュー活動をする。</p> <p>○インタビューして得た情報を基に、お店の人の思いや願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな物だと飾る場所に困る。旗ならよい。 ・修行をしたり受け継いだりした歴史が、それぞれのお店にある。 ・お客に来てもらうため努力している。 <p>○旗を作る活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力し続ける人がかっこいい。 ・かっこいい旗を作りたい。 ・旗で商店街のにぎやかさを取り戻したい。 ・本当に伝わるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、解決方法を実行するための準備であることを教師が意識する。【3(2)】 ・お店には事前に活動の趣旨を伝える。【3(4)】 ・お店の人と仲良くなり、名前と顔を覚えることの重要性に気付くようにする。聞いたことだけではなく、見たこと感じたことも店のよさであることに気付くようにする。 ・国語の単元と結び付けて学習を深める。【3(3)】 ・話合いで情報の共有をし、商店街の魅力に気付くようにする。【3(2)】【3(5)】 	<p>10</p>
<p>課題解決の方法: 「旗を作って、商店街をパワーアップさせよう」</p>			
<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p> <p>課題</p>	<p>お店のよさが伝わるか確かめよう</p> <p>○旗を飾って準備する。</p> <p>○学校公開の展示会で感想を集める。</p> <p>○旗をよりよくするため、展示会で集めた情報を基に、改善点を見付ける活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい色づかいだと店に入りやすい。 ・遠くても近くても丁寧で分かりやすい旗。 <p>○旗作りの続きをする。</p> <p>旗を届けて商店街をパワーアップさせよう</p> <p>○旗の思いを店員に伝える準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小單元は、よりよい課題解決のために見直す学習であることを教師が意識する。【3(2)】 ・より相手意識をもたせるために、作成途中で活動を見直す機会をつくる。展示コーナーを作り、学校公開で来校した地域の方に旗を見てもらう。よい旗にはシールを貼り、理由を付箋に残す。【3(4)】 ・本小單元は、課題解決の方法を実行する学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	<p>6</p>

情報	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っている店員さんがかっこいいと思ったことを伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗のデザインの趣旨が説明できるようグループで話し合う機会を設ける。訪問前に評価の観点を子供と話し合いながら作成する。店員の表情、言葉、態度などの視点で観察できるようにする。【3(4)】【3(5)】 	5
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○旗を届け、商店街への思いを伝えに行く。 		
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○旗を届けに行ったときの様子を話し合い、課題解決に結び付いたか考える。 ・笑顔だった。お礼を言ってくれた。 ・「客が来てくれそう」と言ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後は、各店舗の情報を共有することで、今回の活動が成功したと言えるのか話し合う。その際、店員だけではなく、客の反応も考える必要性に気付かせる。【3(2)】 	
表現	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己の成長を見つけよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、ポートフォリオを活用し、これまでの活動を価値付ける学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、自分の成長を見つけ、付箋に記入する。 		
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか見付けられないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを読み返し、自己の成長を見つけやすくする。見付けられない子供には文字数など数値化しやすい事柄に注目させる。【3(1)】 	7
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動を振り返り、友達の成長を見つけ、付箋に記入する。 		
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の成長は見付けやすい。 ・友達にたくさん見付けてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の成長を見付ける際は、活動班内で1人ずつ見つける時間を設定し、どの子供も複数の付箋がもらえるようにする。【3(1)】 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○2種類の付箋から、自分の成長を文章や絵に書き表す。 ・成長していた。3学期もがんばろう。 		
課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動の効果を確かめよう 1</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、活動の評価を行う学習であることを教師が意識する。【3(2)】 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○客が増えたか調査する評価方法を考える。 ・アンケートなら忙しい人も答えられる。 ・手紙で気持ちを伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容は、お客さんが来たかこないかだけではなく、気持ちの変化を問う項目も入れるようにする。 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートの内容と答え方を考える。 ○アンケートを届ける準備をする。 ・変化があったか聞きたい。質問しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは集計しやすい答え方を考える。 ・アンケートはお店用とお客用の2種類を作ることによって、自分の活動がお店に貢献したことだけではなく、地域の人に影響したことも確かめられるようにする。【3(2)】 	6
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートを届けに行く。 ・たくさん会話してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートはお店用とお客用の2種類を作ることによって、自分の活動がお店に貢献したことだけではなく、地域の人に影響したことも確かめられるようにする。【3(2)】 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○旗の効果を話し合う。 ・お客さんは増えていないことを知った。 ・自分たちの活動は無意味だったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の人には、子供の活動で客数は簡単に増えない現実を伝えるようお願いする。【3(4)】 	
課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活動の効果を確かめよう 2</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、活動の評価を分析する学習であることを教師は意識する。【3(2)】 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートを集計する。 ・グラフにすればわかりやすいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集計やグラフへの整理等の作業がしやすいように環境を整える。 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○集計結果から分析する。 ・客は増えていない。無意味な活動なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を基に考察する。【3(3)】 	
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○結果から、これまでの活動を話し合う。 ・お客さんは増えなかったが、店員の気持ちが見えてきた。成功したといえる。 ・客は商店街に行っていないが、行ってみようと思った人がたくさんいる。 ・自分達の活動が人の心を動かした。このことをお店の人に伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字だけではなく、店員や客の気持ちに注目させて話し合わせる。お店を訪問した時の店員の表情や言葉も思い出すことで、お店の人の思いや願い、なぜ活動に協力してくれたのかなどを考えさせる。【3(2)】【3(5)】 	6
表現	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習の成果と感謝の気持ちを伝えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本小単元は、学習のまとめとして、これまでの学習の軌跡を自分なりに表現する学習であることを教師は意識する。【3(2)】 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の気持ちを伝える方法を検討する。 ○お店の人に礼の手紙を書く。 ○手紙を届けて、お礼を伝える。 ○お店の人と会話したことを話し合う。 ・学習が終わっても挨拶を言おう。 ・常連になれるようがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは学習が終わってからどのように商店街と関わるかを話し合わせる。【3(4)】 	6

(2) 探究の過程（スパイラル）を意識して指導を工夫した例

○ 単元名「お米で広がるぼくらの世界」（第5学年）4月～12月 （45時間）

○ 単元目標

- ・体験活動と整理・分析活動を 動して協働的に活動することを通して、課題解決のための一
の学習を学び、米に対する自分なりの概念を形成することができる。 【知識及び技能】
- ・探究課題に対して多面的な視点から繰り返し関わりながら課題を発見したり、関 付けや比較
等をしながらか整理・分析したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・米に関する自分なりの概念を形成するとともに自分の生活を振り返り、どうやって米と付き
合っていくのかを考え実行することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

○ 児童の実態（省略）

○ 教材について

日本人にとって、 史的に米飯は食生活で欠かせない存在である。しかし、近年の消費量や生
産量は約50年前と比べて半減しており、稲作農家に至っては5分の1にまで減少している。

本単元では、「このままだと自分たちが大人になった時に稲作がもっと衰退してしまうかもし
れない」という危機感の基で学習を進める。ただし稲作が全く無い本校地域の実態を生かし、
「お米の消費を増やすためには？」として稲作から漬物作りに学習活動を広げていく。そのた
めに『体験活動を繰り返し行うこと』『体験活動を含めた情報の収集後は必ず整理・分析活動
を行うこと』により、課題を更新しながら探究的な活動がスパイラルに発展していくことに留意し
て学習を進めていく。

また、「お米に合うとは何か」「自分にとって日本の食はどんな存在か」等の概念に関する問い
を定期的に記していくことで、児童個々の学びの深まりを見ていくようにする。

○ 単元に関する具体的評価規準（省略）

○ 指導計画 ※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

探究の 過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価（省略）	時 数
情報 整理	○単元に関わるアンケートを回答する。 ○アンケート結果と日本における米の各種データ（生産量・ 消費量・米農家数等）を整理・分析する。 ・男子と比べて女子はご飯が好きでなかったりあまり食べな かったりするね。 ・データを見ても1965年と比べて全ての数値で大きく減って いるね。	・グラフの読み取りに ついて、様々な比較 を交えて数値の読み 取りができるように する。【3(3)】	3
表現 課題	・このままだと更に減少してお米がなくなるかもしれない。		
整理	○まとめを基に単元の課題を設定する。 「お米の消費を増やす取組を考えよう」	・グループや全体で話 をすることで、多様 な考えを引き出すと ともに、様々な視点 で話し合うことのよ さを感じられるよう にする。【3(2)】	5
課題 情報	○各種データの読み取りを基に第1の課題を設定する。 ・まずはお米の現状が分かる課題を作って調べてみよう。 ・〈課題例〉今と昔の米の種類に違いはあるか。		
表現 整理	○話し合いで決まった課題について、グループで分担して情報 を収集する。 ○調査結果を表やグラフ等を利用してまとめ、報告会を行う。 ○各グループの報告と自分たちの現状を振り返り、自分たち にできることを考える。 ・私たちの地域は稲作が無いし、学校に栽培できる場所もな いから、お米の消費を増やす「おかず」を考えるのはどう だろう。	・各種のデータを客観 的に整理し、データ を根拠に話し合うよ うにする。その際、 整理分析に有効な思 考ツールを積極的に 利用し、整理したこ とが可視化できるよ うにする。【3(2)】	
表現	・学校ファームがあるから、野菜を育てて、野菜を生かした ものを作りたいね。例えば漬物？ ・漬物だったら自分たちも作れると思う。それで行こう！		
課題	○話し合いを基に課題を考える。 「ご飯が進む漬物」を作ってお米の消費を増やそう		
情報	○どんな漬物にしていくか考えるために今まで食べたこと のある漬物やよく食べられている漬物等を調査する。		
整理	○調査結果を整理し、追究する漬物の野菜や味付け等と学		

<p>課題 情報 整理</p>	<p>校ファームで栽培する野菜を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭で出てくる漬け物やアンケート等で「きゅうり」を使った漬け物が一番多かったけど、スーパーでは白菜が多かったかな。でも野菜の種類は結構あったよ。 きゅうりや白菜、茄子ならこの時期からでも栽培できるみたい。この3つに絞って試行錯誤したい。 ○野菜や調理法別にグルーピングをし、各グループでどのような漬け物を目指すのかを考える。 ○各グループで漬け物作りを行う。 ○クラスで試食をするに当たり、審査の基準を考える。 ○各グループの漬け物の試食をして、出来栄を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「味」だけでなく、「野菜の美味しさを生かす」も大切だね。 もっと美味しい漬け物を作るために「漬け物の先生」がいたら、教えてもらいたいね。 家の近くに漬け物を作っているところがあるよ。その人を呼んで教えてもらおう。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の切り方や調味料の分量の測り方など、家庭科の調理実習で学んだことを生かせるようにする。【3(3)】 児童同士の学習から校内や地域に学習が広げられるようにアドバイスする。 	<p>12</p>
<p>課題 情報 整理 表現</p>	<p>漬け物名人から漬け物作りのコツを学ぼう ○ゲストティーチャーに漬け物作りの実演と、漬け物作りで大切なことなどの話を聞く。 ○ゲストティーチャーから学んだことを整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 何か特別な調味料を使っている訳ではなかったね。 食べてくれる人が美味しいと言ってくれることを大切にしていたから、僕たちもそうしたいね。 「みんなで協力して作るべきだ」と言っていた。みんながバラバラに作るのもいいけど、みんなで力を合わせて一つの漬物を作りたいな。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域で漬け物工場を経営されている方から、漬け物の作り方だけでなく、漬け物作りで大切にしていることなど、「技」と「心」の両面で話をしていただくように打ち合わせをしておく。【3(2)】 	<p>4</p>
<p>課題 整理 情報 整理 情報 整理 表現</p>	<p>オンリーワンの漬け物を作ろう ○「オンリーワン」の定義を話し合い、漬け物作りの方向性を決める。 <ul style="list-style-type: none"> 「オンリーワン」は「たった一つだけ」という意味だから、使う野菜や作り方も今までにないものがあるといい。 みんなが納得すれば今までにないものを使わなくていい。 漬け物名人に美味しいと言わせることを目標に頑張ろう。 ○同じ材料を使って漬け物作りをする。 ○漬け物を試食して更に方向性を絞る。 ○話を生かして、漬け物を作る。 ○ゲストティーチャーに食べてもらう漬け物をどれにするかや、試食会の進め方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 食べていただく漬け物は一つに絞らないで、みんなが納得したもの全てを食べてもらおう。 「ご飯に合う漬け物」の視点で食べてもらおう。 食べていただくだけでなく、レシピやこの味に到達するまでの道のりもまとめて、お話を聞いてもらおう。 食べてもらう漬け物のレシピやこれまでの活動行程について紹介するものを作成する。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 「自分たち」の視点だけでなく「誰もが」という視点を大切にするなど、『思いやり・親切』の態度の育成にも意識して学習を進めるようにする。【3(5)】 	<p>15</p>
<p>課題 表現 情報 整理</p>	<p>漬け物試食会を開こう ○ゲストティーチャーや保護者を招いて試食会を行う。 ○試食会でのゲストティーチャーのお話や試食会に来ていただいた方のアンケート用紙を集計し、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 高い評価もあるけど、まだまだという評価もあるね。 取組への姿勢についての評価もあって嬉しいな。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 試食していただく方には率直な評価をしてもらうよう、事前にお願ひしておく。 	<p>4</p>
<p>整理 表現</p>	<p>これからのお米と漬け物への向き合い方を考えよう ○単元を通して、自分が学んだことについての考えを持つ。 ○「お米の消費を増やすために自分にできること」について、考えたことや実践できることを表明する。 <ul style="list-style-type: none"> お米は日本の大切な文化だけど、漬け物も日本の大切な文化だと思う。どちらも大切だから、少しでも消費を増やしたり伝承したりしていきたい。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して学習してきたことや学んだこと、考えたことを、時間をかけて書けるようにする。 	<p>2</p>

第9章 特別活動

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

- (1) 学校の創意工夫を生かす
各学校において、学校の伝統や歴史、経営方針や重点目標、地域のよさや特性等を積極的に生かすなど工夫して、特色ある特別活動の指導計画を作成することが重要である。
- (2) 学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮する
学級や学校、地域の実態、集団の状況及び児童の発達の段階（「発達課題」、「学校生活における集団活動の発達的な特質」、「発達に即した指導のめやす」など）を考慮する。
- (3) 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る
カリキュラム・マネジメントの観点に立ち、各教科等で育成された資質・能力が特別活動で十分に活用できるようにするとともに、特別活動で培われた資質・能力が各教科等の学習に生かされるように関連を図ることが大切である。
- (4) 児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにする
学級活動(1)や児童会活動、クラブ活動では、自発的、自治的な活動を一層効果的に展開し、自主的、実践的な活動が助長されるようにする。また、学級活動(1)に重点を置き、より多くの活動の機会を設けることができるような計画を作成する。学級活動(2)、(3)や学校行事では、教師の適切な指導の下、計画や運営に児童の自主的、実践的な活動を可能な限り取り入れるよう工夫する。
- (5) 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する
体験を通して学ぶことを重視する特別活動の特質に鑑み、家庭や地域との交流を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化・伝統を生かしたり、社会教育施設等を活用したりすることが大切である。

2 指導計画作成の一般的な手順

	作成の手順	
全体計画	ア 学校教育目標を具現化するための全体計画作成の方針を定める。 イ 特別活動の重点目標、指導の重点を決める。 ウ 家庭、地域との連携や各教科等との関連を図る。 エ 各活動及び学校行事の目標と指導の方針を明らかにする。 オ 目標やねらいが十分に達成できる授業時数を充てる。 カ 設置する委員会、クラブ、実施する学校行事を決める。	
学級活動	<u>学校としての年間指導計画</u> ア 学校としての学級活動の指導目標や内容を踏まえる。 イ 発達の課題や道徳科の内容項目、重点等を考慮する。 ウ 児童の活動として望ましい議題例や時期等の大まかな枠組みを定める。 エ 「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」は、学校や児童の実態に応じて取り上げる指導内容の重点化を図る。 <u>学級としての年間指導計画</u> ア 学級の指導目標や育てたい力を明らかにする。 イ 自発的、自治的な活動の経験や学級集団育成上の課題を把握する。 ウ 他教科等や特別活動の他の活動及び行事との関連を図る。 エ 学校としての年間指導計画や学級集団育成の見通しを踏まえ、指導内容を適切な時期に位置付ける。	
児童会活動	ア 学校としての児童会活動の指導目標を設定する。 イ 代表委員会や各委員会の組織と構成を明らかにする。	ウ 活動時間や活動場所を適切に設定する。 エ 年間に予想される主な活動を位置付ける。 オ 教師の指導体制を明確にする。
クラブ活動	ア 学校としてのクラブ活動の指導目標を明らかにする。 イ クラブの組織と構成を明らかにする。	
学校行事	ア 学校としての各行事の指導目標を明らかにする。 イ 行事間の関連を図ったり行事を統合したりするなど実施の在り方を創意工夫する中で、精選を図る。 ウ 5つの種類ごとに各行事の実施時期やねらい、内容、参加学年、授業時数を位置付ける。 エ 各教科等との関連を図り、1年間を見通した指導計画を作成する。	

※ 全体計画及び年間指導計画は、評価し、改善を図り、次年度の計画に反映させる。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点

学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にし、個々の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する。必要に応じて、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

特別活動において、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を推進する。そのために、特別活動の目標の具現化に向け、児童が「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせていけるよう、指導計画を作成する。

(3) 「教科等横断的」な視点

各教科等の特質に応じて育まれた資質・能力を、実践的な集団活動を通して、統合的で汎用的な力に変え、キャリア教育の充実を図るという視点からも、実生活で活用できるようにすることが大切である。学級経営の充実に資する特別活動の積み重ねが、学校文化を創造し、各教科等での主体的・対話的で深い学びを支え、そこで培われた資質・能力が、特別活動の充実にもつながる。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点

児童の主体的な活動を指導する具体的な方策や、自校の実践を地域社会と共有することが大切である。また、学校が意図的、計画的な教育活動の一環として、学校内外において多様な他者と交流し、協働して活動できる機会と場を設定することが大切である。

(5) 「道徳教育の充実」の視点

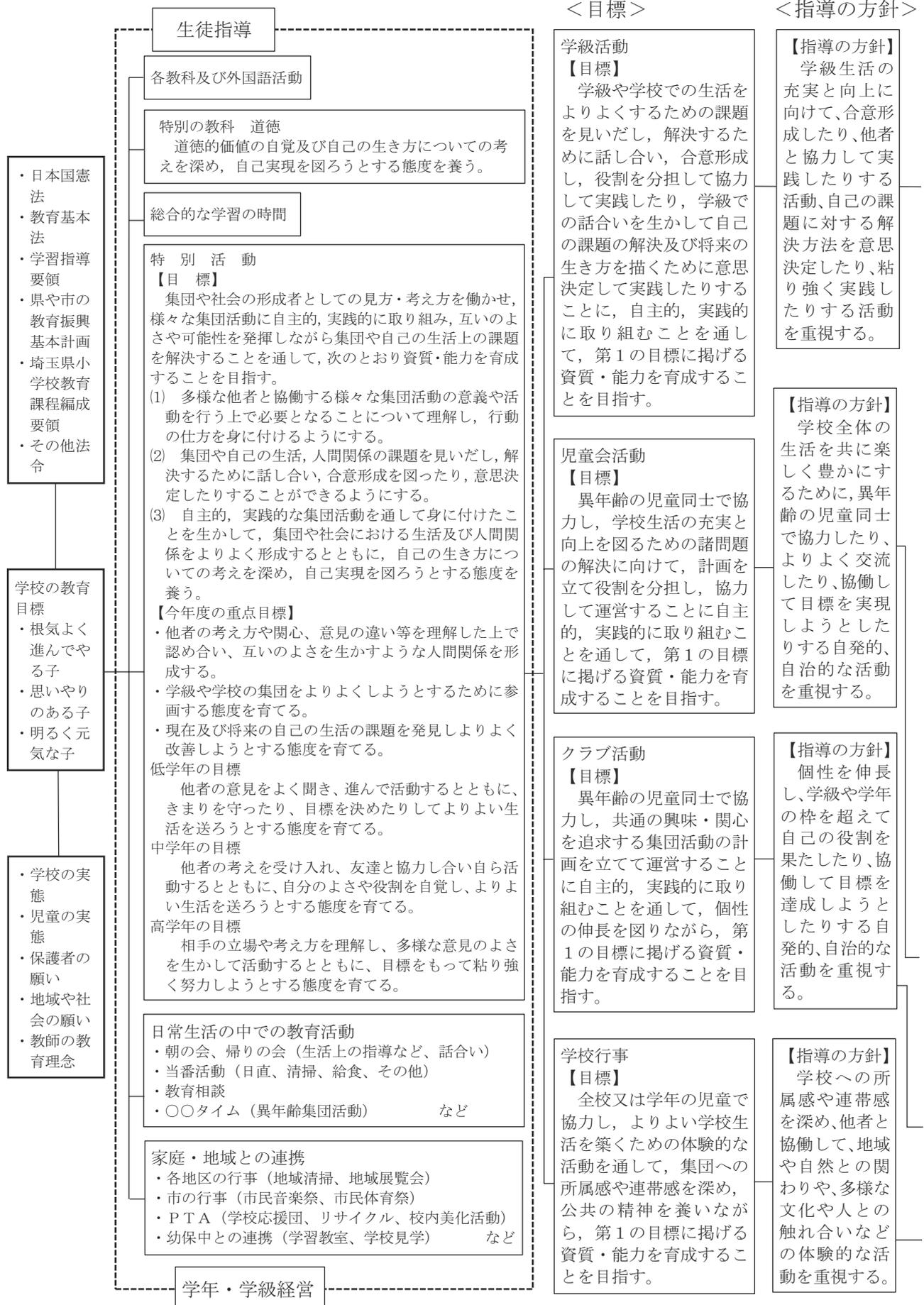
特別活動における道徳性の育成を目指して、道徳教育の内容との関連を考慮する。特に、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら直面する課題を解決する」という特質を生かし、道徳的実践の指導の充実を図る。

(6) 内容の取扱いについての配慮事項

	配慮事項
全体計画	<ul style="list-style-type: none"> ○調和のとれた特別活動の全体計画と各活動及び学校行事の年間指導計画を全教師の協力の下で作成する。 ○教師の適切な指導の下、児童の自主的、実践的な活動が助長されるような全体計画を作成する。 ○家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用など工夫する（各活動及び学校行事でも考慮） ○道徳的実践の指導の充実を図り、集団の中で自己を生かす能力を養えるようにする。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮し、自主的、実践的な活動が助長されるようにする。（児童会活動・クラブ活動も同じ） ○児童の自主性を伸ばし、学校生活を一層楽しくするため「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」に重点を置き学級活動の指導が行われるよう工夫する。 ○〔内容〕として示されているものは、いずれの学年においても取り扱う。 ○各教科等における指導との関連や、家庭や地域の人々との連携などを工夫する。 ○児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫する。 ○学校生活への適応や人間関係の形成などについては、ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導を図る。
活児童会	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営」「異年齢集団による交流」「学校行事への協力」に関する活動を適切に位置付ける。 ○学校の実態を踏まえて児童会活動の組織を編成する。
活クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ○「クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営」「クラブを楽しむ活動」「クラブの成果の発表」に関する活動を適切に位置付け、異年齢集団の交流が十分に深まるようにする。 ○学校や地域の実態等を考慮し児童の興味・関心を踏まえて実施できるよう計画する。
行学事校	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の創意工夫を生かす。また、学級や学校の実態や、児童の発達の段階などを考慮する。 ○児童会活動との関連を密にするなどして、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにする。 ○家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する。

第2 指導計画作成のための資料

1 特別活動全体計画例



<内容>

【内容】

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
 - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 基本的な生活習慣の形成
 - イ よりよい人間関係の形成
 - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
 - エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
 - イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
 - ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

【各学年段階の配慮事項】

〔第1学年及び第2学年〕

話合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること。

〔第3学年及び第4学年〕

理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。

〔第5学年及び第6学年〕

相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。

【内容】

- (1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営
- (2) 異年齢集団による交流
- (3) 学校行事への協力

【内容】

- (1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営
- (2) クラブを楽しむ活動
- (3) クラブの成果の発表

【内容】

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 遠足・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

<組織・時間等>

- ・計画委員会は輪番制とし学級の全児童で組織する。
- ・係活動や集会活動は児童の発達を考慮して組織する。
- ・学級担任が中心となり指導するが、必要に応じて養護教諭、栄養教諭、司書教諭、地域の方等と連携を図る。

【(1), (2), (3)に配当する時間】

	(1)	(2), (3)
1 年	1 8	1 6
2 年	2 0	1 5
3 年	2 2	1 3
4, 5, 6 年	2 4	1 1

代表委員会

- ・4年生以上の各学級代表男女各1名、各委員会の代表によって組織する。必要によってはクラブ活動の代表等（通学班班長、縦割り班班長）が参加する。
- ・毎月第3月曜日第6校時に実施（定例）し、臨時会議も行う。
- ・児童会計画委員会を中心に企画立案する。
- ・児童会計画委員会は、毎月第2月曜日第6校時に行う。

委員会活動

- ・運動委員会・給食委員会・保健委員会・図書委員会・集会委員会
- ・掲示委員会・栽培委員会・美化委員会・放送委員会
- ・5年生以上の全児童で分担する。所属は通年制とする。
- ・毎月第1木曜日第6校時を定例活動とし、その他常時活動を行う。
- ・各委員会では、委員長、副委員長、記録を互選する。

児童会集会活動 全学年6時間

- ・年4回の児童集会（なかよし集会、〇〇小まつり、6年生を送る会など）を実施する。
- ・業前の時間を活用した短時間の集会活動も実施する。

- ・第4学年以上の全児童をもって組織する。
- ・全教師で分担し、指導する。
- ・毎週木曜日（第1を除く）の第6校時を活動時間に充てる。
- ・年度初めに組織・活動計画について話し合い、決定する。
- ・各学期の終わりに成果をまとめ、次の学期に生かす。
- ・共通の興味関心を児童相互の創意や工夫を生かしながら活動（追求）する。
- ・学年末にクラブ見学（3年生）とクラブ発表会を行い、活動の成果発表の場とすると共に来年度の所属の参考とする。

※4～6学年 25時間（時間割への位置づけ）

- ・手芸調理 ・器楽 ・科学工作 ・伝統文化 ・室内スポーツ
- ・縄跳び ・ドッジボール ・サッカー ・バスケットボール ・陸上

- (1) 儀式的行事
学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。
入学式 始業式 離任式 終業式 卒業式 卒業式 修了式
- (2) 文化的行事
平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。
学習発表会 校内音楽会 展覧会 音楽鑑賞会 演劇鑑賞会
- (3) 健康安全・体育的行事
心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。
通学班編成 運動会 健康診断 避難訓練 交通安全教室 避難引渡訓練
- (4) 遠足・集団宿泊的行事
自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
全校遠足 林間学校 修学旅行
- (5) 勤労生産・奉仕的行事
勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。
プール清掃 飼育栽培活動 大掃除 地域清掃
地域交流活動（高齢者施設訪問）

<評価>

【評価の対象】

- ・指導計画、指導方法及び展開の過程
 - ・集団の変容
 - ・個人の変容
- 【評価計画の内容】

- いつ（時期、段階）
- 誰が（主体）
- どのようにして（方法）
- ・児童による自己評価
- ・児童による相互評価
- ・教師による観察法等
- 何のために（結果の活用目的）

2 学級活動の年間指導計画

(1) 学級活動で取り上げる活動例

活 動	内 容	議題例及び低・中・高学年別の題材例
(1)学級や学校における生活づくりへの参画	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞよろしくの会をしよう」 ・「室内オリンピック集会をしよう」 ・「〇年〇組カルタ大会をしよう」 ・「みんなのコーナーの使い方を考えよう」
	イ 学級内の組織づくりや役割の自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級を楽しくする係を決めよう」 ・「係活動をさらに充実させよう」
	ウ 学校における多様な集団の生活の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇小まつりでのクラスの出し物を決めよう」 ・「〇〇小あいさつ運動を盛り上げよう」
(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	ア 基本的な生活習慣の形成	低：「がっこうせいかつのきまり」 中：「雨の日の過ごし方」 高：「公共の場所でのマナー」
	イ よりよい人間関係の形成	低：「みんななかよし」 中：「互いのよき発見」 高：「男女の協力」
	ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	低：「みのまわりのあんぜん」 中：「安全な自転車の乗り方」 高：「災害時の安全」
	エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	低：「たのしいきゅうしょく」 中：「バランスのよい食事」 高：「おやつのとり方」
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現	ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	低：「たのしいなつやすみ」 中：「楽しいクラブ活動」 高：「もうすぐ中学生」
	イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	低：「きれいなきょうしつ」 中：「当番の仕事」 高：「委員会活動の役割」
	ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	低：「本のかりかた、かえしかた」 中：「図書整理」 高：「自主学習の工夫」

(1)は全員で協力して楽しく豊かな学級や学校生活にするために、取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどを「議題」として取り上げ、計画委員会で選定し、学級全員で決定する。

(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題を、年間指導計画に基づいて、教師が「題材」として設定する。

(2) 学級活動の各活動における学習の過程例

1 単位時間の指導計画は、事前及び事後の活動を含めた一連の活動の過程等についての見通しを示すことが大切である。

	(1)学級や学校における生活づくりへの参画	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現
事前の活動	1 問題の発見 ・教師の適切な指導の下に、学級や学校をよりよくするために、児童が諸問題を発見し、提案をする。	1 題材の設定 ・年間指導計画により、個々の児童が共通に解決すべき問題として、教師が「題材」を設定する。
	2 学級としての課題の選定 ・計画委員が中心になり、以下の視点で問題を整理し、協力して達成したり解決したりする学級として取り組むべき共同の問題を選定する。 ①学級のくらしがよくなる問題か ②工夫できそうな問題か ③自分たちの力で解決できる問題か ④学級の全員に関係のある問題か ⑤今すぐ解決しなければならない問題か	2 問題の確認 ・取り上げる題材について学級の問題等を確認し、課題を設定する。
	3 議題の決定 ・計画委員が中心になり、目標を達成したり問題を解決したりするために、全員で話し合うべき「議題」を学級全員で決定する。	3 共通の課題の設定 ・個々の児童が解決すべき共通の問題として授業で取り上げる内容を決めて児童に伝え、問題意識の共有化を図る。
	4 活動計画の作成 ・教師の適切な指導の下、計画委員会で活動計画を作成する。 ①提案理由の練り上げ ②役割分担 (司会、黒板記録、ノート記録等) ③決まっていること (条件) の確認 ④めあての設定 ⑤「話し合うこと」の設定	4 指導計画の作成 ・事前、本時、事後の指導計画を教師が作成し、事前調査をしたり、資料を作成したりする。 ・資料作りや資料の説明等で児童の活動を取り入れる。
	5 問題の意識化 ・議題に対する関心を高め、話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識を高める。	5 問題の意識化 ・題材への関心を高め、話し合いに積極的に参加できるように自分の現状や目指す姿について考えたり、学級の現状を調べたりして、問題意識を高める。

本時の活動	6 学級会（話し合い活動）	6 話し合いの活動
	集団討議による集団としての合意形成 <ul style="list-style-type: none"> 教師の適切な指導の下、活動計画に沿い、役割ごとに能率よく進行する。 少数意見も大切にしながら、多様な意見のよさを生かして、提案理由に基づいた折り合いをつける話し合いができるように助言する。 	集団思考を生かした一人一人の意思決定 <ul style="list-style-type: none"> 主に教師が中心となり、児童の活動を取り入れながら指導する。 ①問題の共通化、課題の把握 ②問題が起こる原因の追求 ③解決方法等の話し合い ④個人目標の意思決定
事後の活動	7 集団としての実践	7 個人としての実践
	<ul style="list-style-type: none"> 学級全員で役割を分担し、全員で協力して実践する。 児童の活動意欲が高められるように見届けながら称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定した個人目標に向かって、一人一人が努力するように働きかけ、家庭に協力を求めるなど、見届け、称賛する。
事後の活動	8 活動の振り返り（評価）	8 活動の振り返り（評価）
	<ul style="list-style-type: none"> 学級全員で事前・本時・事後の一連の活動を振り返り、よかったことや次の活動への課題等を整理する。 学級全体や児童の活動による変容や努力等について称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定期間の実践後、教師による評価や児童による自己評価、相互評価を行う。また、内容によっては家庭の評価も取り入れる。 児童の活動による変容や努力等について称賛する。

(3) 発達の段階に即した指導のめやす（以下のような姿になるよう適切に指導する）

内容		低学年	中学年	高学年
話し合いの活動	計	【提案】 <ul style="list-style-type: none"> 教師の助言を得ながら、学級全体にとって必要な議題を考え、提案する。 【計画委員会】 （2年生頃から徐々に組織する）	【提案】 <ul style="list-style-type: none"> 生活の中から、学級全体に関わる問題を見付け、理由を明確にし議題を提案する。 【計画委員会】 <ul style="list-style-type: none"> 計画委員会を組織し、教師の適切な指導の下、議題を選定する。 	【提案】 <ul style="list-style-type: none"> 学級や学校の生活を向上させるための適切な議題を選び工夫しながら提案する。 【計画委員会】 <ul style="list-style-type: none"> 計画委員会を組織し、学級や学校の生活に関わる議題を選定する。
	画	<ul style="list-style-type: none"> 提案された議題をみんなに知らせる。 提案ポストを開ける役割、知らせる役割、指す役割、貼る役割等を輪番で分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの順序について、簡単な計画を立て、運営の仕事を分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容や順序を考え、運営に必要な準備をする。
	合	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は教師が司会、記録の役割を担う。 教師と一緒に進行しながら、簡単な役割を輪番で少しずつ経験する。 2年生は、児童の実態に即して、教師の助言を得ながら、徐々に司会や記録の役割を経験する。 友達の意見をよく聞き、約束に従って自分の意見を言う。 学級生活を楽しくするための合意形成ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が輪番制で司会や記録等の役割を経験する。 相談しながら進行し、時間配分を考え、多くの人に発言の機会を与える。 理由を明確にして意見を言ったり、異なる考えについてもよく聞いて公平に判断したりして、よりよい結論をまとめる。 楽しい学級生活をつくるために、少数意見も大切にしながら折り合いをつけ、合意形成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の適切な指導の下、自分たちの手で計画委員会が運営できる。 公平な態度で積極的にみんなの建設的な意見を引き出し、みんなが納得できる意見にまとめていく。 学級だけでなく学校生活にまで目を向けて話し合い、多様な意見のよさを生かして、よりよい結論をまとめる。 提案理由をよりどころに折り合いをつけ、よりよい合意形成ができる。
実践	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを仲良く助け合って実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 決定したことを協力し合って進んで実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 決定したことや自分の役割を自覚し、互いに信頼し支え合って実践する。 	
係活動	組	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の入門期は、学級生活に必要な仕事を見付けて自分から進んで取り組むことができる。（一人一役の仕事見付け） 全員がいずれかの係に所属し、活動する。 教師の指導の下、活動計画を立てる。 適切な時期に係を交代する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性や重要性を考えて係を設定する。 仕事に応じて、内容や人数を考える。 係ごとに活動内容、方法等を検討し、継続的に活動する。 当番的な活動を整理統合し、創意工夫が生かせるような係を組織する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性や重要性を考え、係の仕事内容や人数を話し合って決める。 必要に応じて、組織を見直すために話し合う。 活動内容を検討し、常に学級生活の向上を目指す活動計画を立てる。
	実践	<ul style="list-style-type: none"> 一人一役の当番的な活動から始め、集団活動の必要性を実感するとともに、創意工夫できる活動に気付くことができる。 仲良く助け合って、学級生活を楽しくすることができる。 仕事を忘れず、友達と協力して活動する。 計画に従って楽しく活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の計画や悩みなどを学級会の議題とし、話し合ったり協力を呼びかけたりして係活動の改善に取り組むなど、協力し合って活動できる。 朝の会や帰りの会の時間などを生かして、係活動の連絡や発表の場を設けるなど、自主的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさを生かせる係に所属し、自覚をもって活動する。 創意工夫ができる活動に重点化する等、学級生活の向上を目指して創造的な活動をすることができる。 係活動で身に付けた力を委員会活動などの場でも生かすことができる。
集会活動	計画	<ul style="list-style-type: none"> 教師の適切な指導を得ながら、計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 創意を生かした原案をつくり、教師の助言の下、計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会の意義を理解し、目的を明確にして、自主的に集会を計画する。
	実践	<ul style="list-style-type: none"> 教師の適切な指導の下、役割を決め、プログラムに従い運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで集会に参加し、分担した役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容や種目に工夫を凝らし、自主的に楽しい集会を行う。

(4) 学校で作成する学年別年間指導計画例 4年生

指導目標		<p>○学級の諸問題を解決する意義、自己の生活上の課題を改善する意義、働くこと・学ぶことの意義を理解し、合意形成の方法、生活改善の知識や方法、自己実現に向けた行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>○学級の課題を見だし、理由を明確にして、自分と異なる意見を受け入れながら、合意形成を図り、協働して実践をしたり、自己の生活上、将来に向けた課題を見だし、解決方法を意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>○話し合いや実践を通して身に付けたことを生かし、よりよい人間関係を形成するとともに、日常生活の充実・向上を図ろうとする態度を養う。</p>					
学級活動の内容		(1)学級や学校における生活づくりへの参画【24時間】	(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 【(2)・(3)は合わせて11時間】		短時間で指導する題材	児童会活動・学校行事等の予定	
		予想される議題例	・指導上の留意点	題材	○指導上のねらい ・指導上の留意点		
4	<p>〈1学期の議題例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞよろしくの会」の計画を立てよう ・係を決めよう ・学級の歌を決めよう ・学級のボールの使い方のきまりを決めよう ・雨の日の過ごし方を考えよう ・七夕集会の計画を立てよう ・「1学期をふりかえる会」の計画を立てよう 等 	<p>話し合い活動の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを実施し、学級会の意義や進め方、計画委員会の役割等について理解できるよう丁寧に指導する。【3(1)】 ・適切な議題を自分たちで選び、提案できるよう視点を示す。【3(2)】 ・計画委員が自主的に準備できるよう活動計画作成の手順を具体的に示す。 	○4年生になって (3)ア(2)イ	○4年生の学習や生活を知り、不安や悩みを解消し、よりよい人間関係づくりができるようにする。 ・4年生の学習内容や行事等を示し、具体的なめあてが立てられるようにする。【3(1)】	●学級や学校のきまり ●クラブ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・始業式 ・離任式 ・1年生を迎える会 ・避難訓練 ・交通安全教室 ・運動会 ・プール清掃 ・全校遠足 ・地域清掃 ・終業式 	
5			○安全な自転車の乗り方 (2)ウ	○安全な自転車の乗り方を実践しようとする態度を育てる。 ・安全な乗り方が具体的に理解できるよう安全教室の内容を踏まえる。	●当番活動の大切さ ●手洗い・うがい		
6			○歯みがきの大切さ	○歯の健康を守ろうとする態度を育てる。 ・正しいみがき方が理解できるよう実際の歯みがきを取り入れる。	●ろうか歩行 ●雨の日の過ごし方		
7			○夏休みの過ごし方 (3)ア(2)ア	○目標をもって夏休みを計画的に過ごそうとする態度を育てる。 ・学習や家庭での役割等に進んで取り組めるよう家庭との連携を図る。【3(4)】	●水の事故を防ぐ ●プールでの約束		
9	<p>〈2学期の議題例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係活動発表会の計画を立てよう ・夏休み発表会の計画を立てよう ・読書集会の計画を立てよう ・室内オリンピックの計画を立てよう ・グループ新聞コンクールをしよう ・みんなのコーナーの使い方を考えよう 等 	<p>話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の発表と同様に理由を明確にして、自分の考えが発表できるよう日々の学習から繰り返し指導をする。【3(3)】 ・友達の異なる意見も受け入れて、楽しい学級生活をつくるために合意形成ができるようにする。【3(5)】 ・実態に応じて、教師は積極的に助言を行い、時間内に決定できるようにする。 	○気持ちのよいあいさつ (2)ア	○進んであいさつをしようとする態度を育てる。 ・気持ちのよいあいさつについて理解できるようロールプレイを取り入れる。【3(1)】	●2学期のめあて ●避難訓練の参加の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・避難訓練 ・学習発表会 ・飼育栽培活動 ・高齢者施設訪問 ・なかよし集会 ・演劇鑑賞会 ・終業式 	
10			○友達と仲よく (2)イ	○互いのよさを知り、協力して生活しようとする態度を育てる。 ・友情の大切さを実感できるよう日常の場面を想起させる。【3(5)】	●読書の楽しさ ●朝食の大切さ		
11			○バランスのよい食事 (2)エ	○偏食をなくし、バランスよく食べようとする態度を育てる。 ・具体的なめあてが立てられるよう給食の場面を想起させる。	●規則正しい生活 ●男女仲よく		
12			○家庭学習の進め方 (3)ウ	○自主的に家庭学習に取り組もうとする意欲を育てる。 ・意欲を継続させるため1週間程度、励ましの言葉を書いてもらうなど、家庭に協力を依頼する。【3(4)】	●忘れ物をなくそう ●風邪の予防		
		〈係活動への指導〉					
1	<p>〈3学期の議題例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆まき集会の計画を立てよう ・思い出カルタをつくろう ・6年生を送る会の出し物を決めよう ・縄跳び集会の計画を立てよう ・クラス文集をつくろう ・4年生がんばったね集会の計画を立てよう 等 	組織	・学級生活が充実・向上する係が組織できるよう当番との違いを丁寧に指導する。【3(1)】	○インフルエンザの予防 (2)ウ	○健康への関心を持ち、進んで予防しようとする態度を育てる。 ・具体的な予防方法が考えられるよう経験を基にした話し合いを取り入れる。【3(2)】	●3学期のめあて ●図書館での勉強の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・地域交流活動 ・避難訓練 ・通学班編成 ・大掃除 ・6年生を送る会 ・卒業式 ・修了式
2		計画	・創意工夫を生かした活動計画が立てられるよう具体例を示す。	○もうすぐ高学年 (3)ア	○高学年に向けてめあてや希望をもって生活しようとする態度を育てる。 ・今後の生活に向けた具体的なめあてが立てられるよう高学年の生活を詳しく紹介する。【3(5)】	●気持ちのよい言葉づかい ●室内の換気	
3		実践	・全員で協働して取り組めるよう活動する機会を定期的に設ける。 ・係同士が連携したり、要望や願いが出し合えたりするよう相互交流の場を工夫する。	○進んで働くこと (3)イ	○家庭での役割を自覚し、進んで取り組もうとする態度を育てる。 ・家庭での役割について励ましの言葉を書いてもらうなど、家庭との連携を図る。【3(4)】	●教室をきれいに ●6年生への感謝	

〈留意事項〉○学級活動で示された内容は、いずれの学年においても必ず取り扱うとともに、1単位時間で指導する。

学級ごとに作成する年間指導計画例

〇〇市立〇〇小学校 第4学年2組 学級活動年間指導計画

学級教育目標	友達を思いやる子 真剣に学ぶ子 一生懸命運動する子
--------	---------------------------

<p>集団活動における児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級会の基本的な進め方を理解しており、ある程度は自分たちで進行することができる。 ・自分の意見を発表することに消極的な児童が見られる。 ・集会では、男女分け隔てなく、協力して取り組んでいる。 ・係活動をとっても楽しみにしており、休み時間に進んで取り組んでいる。 	<p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の手で議題を選定し、活動計画を作成してほしい。 ・係を創意工夫して、学級生活を充実させてほしい。 ・計画的に準備をして、集会に取り組んでほしい。 ・自分で立てためあてに向かって努力を継続できるようになってほしい。
---	---

<p>指導目標</p> <p>○学級や日常生活・自己のキャリア形成のための話し合いの大切さを理解し、合意形成の仕方、自分に合ったためあての立て方を身に付けられるようにする。</p> <p>○学級や自分の生活、将来に向けた課題を見付け、合意形成・意思決定をすることができるようにする。</p> <p>○学級や自分自身の生活の充実・向上を図ろうとする態度を養う。</p>

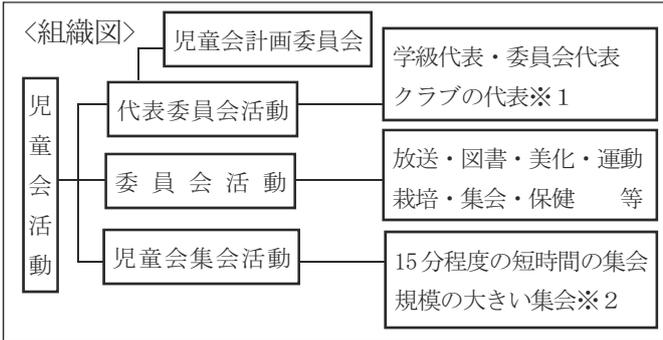
<p>手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が興味関心をもって進んで取り組めるよう計画的にオリエンテーションを実施する。 ・めあてを振り返る機会を意図的に設けることで、継続して取り組めるようにする。
--

学 期	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ・予想される議題例	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ○1単位時間での指導 ●短時間での指導
1	<p>1学期の活動目標：「学級のみんなど仲よくなろう」</p> <p>【話し合い】役割や進行の仕方を確認し、児童自身（計画委員）で進められるようにする。 【係活動】学級生活を充実、向上させるために必要な係を設置できるようにする。 【集会活動】児童自身で計画的に準備が進められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進級お祝い会の計画を立てよう ・クラスの歌をつくろう ・クラスの掲示板をつくろう
	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な自転車の乗り方 ○4年生になって ●上手なそうじ 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯みがきの大切さ ○夏休みの過ごし方 ●雨の日の過ごし方
	<p>1学期の評価（例）</p> <p>○学級会の意義を理解し、学級生活を向上させようと意欲的に取り組んでおり話し合いの進行の仕方についてもよく理解している。</p> <p>○自分の意見を押し通そうとする児童も見られ、全体の意見がまとまらず合意形成に至らないこともあった。</p> <p>○自分で決めた目標に向けて継続して努力をする児童が増えてきた。</p>	
2	<p>2学期の活動目標：「楽しい学級生活を協力してつくろう」</p> <p>【話し合い】議題の選定や活動計画等、計画委員で準備できるようにする。 【係活動】係相互の交流が行えるよう、場や機会を工夫する。 【集会活動】よりよい集会が実践できるよう振り返りの機会を設けるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み思い出発表会の計画を立てよう ・係新聞コンクールをしよう ・室内オリンピックの計画を立てよう
	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と仲よく ○2学期になって ●読書の楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ○バランスのよい食事 ○家庭学習の進め方 ●避難訓練の参加の仕方
	<p>2学期の評価</p>	
3	<p>3学期の活動目標：「みんなで楽しい思い出をつくろう」</p> <p>【話し合い】少数意見を大切に、友達の意見を生かそうとする話し合いを進められるようにする。 【係活動】係発表会など1年間の成果が認め合える機会を設ける。 【集会活動】集会の例を提示し、レクリエーション的な内容に偏らないようにする。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出カルタをつくろう ・係発表会の計画を立てよう ・4年2組お別れ会の計画を立てよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○インフルエンザの予防 ○もうすぐ高学年 ●6年生への感謝 ●教室の換気
	<p>3学期の評価</p>	

- 〈留意事項〉 ○学期末に指導目標をもとにして、個と集団の評価を実施する。
○学級活動における自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実を図るようにする。

3 児童会活動

(1) 児童会活動の活動内容と組織例



〈留意事項〉

○学級代表は高学年が中心となるが、学校規模によっては、中学年児童の参加も考えられる。

○代表委員会と各委員会を同じ時間に行うことのないよう実施の在り方を工夫する。

※1 クラブの代表については、必要に応じて招集する

※2 規模の大きい集会については、1～2単位時間程度で実施する

(2) 児童会活動の年間指導計画例

指導目標	○児童会や委員会活動の意義を理解し、計画や運営、交流の仕方を身に付けるようにする。 ○学校生活における課題の解決に向け、合意形成したり、意思決定したりできるようにする。 ○異年齢における互いのよさを生かし、協働してよりよい学校生活をつくろうとする態度を養う。		
	代表委員会活動（予想される活動）	委員会活動（予想される活動）	児童会集会活動（予想）
			短時間 大規模
1学期	○児童による組織づくり ※教師の適切な指導のもと、役割を輪番にするなど、児童を生かす工夫をする	・自己紹介と役員を選出 ・活動計画と役割分担の作成 ・委員会紹介の計画と準備	新役員紹介 ふれあい集会 1年生を迎える会
2学期	○活動計画の作成 ○全校集会の実施・振り返り ○学校生活の諸課題について	・2学期の計画と分担確認 ・活動強化週間の計画・実施 ・2学期のまとめと反省	花植集会 クリーン活動 ○○小祭り 開校記念集会
3学期	○クラブ発表会の計画 ○卒業に関する全校集会の実施 ○反省と次年度への引継ぎ 等	・3学期の活動計画の見直し ・1年間の活動のまとめと評価 ・次年度への引継ぎと準備	縄跳び集会 委員会発表 6年生を送る会

〈留意事項〉

○集会等活動においては、各学級の関わり方等について、学級経営との関連を図る。【3(3)】

○学校行事の計画の一部を担う場合は、児童の負担過重にならないようにする。

(3) 代表委員会

ア 代表委員会の年間指導計画例

本校における代表委員会活動の目標	異年齢集団による話し合い活動を通して、それぞれの学年の意見を尊重しながら、よりよい学校生活を築くことができるように合意形成を図ったり、活動をしたりする。		
活動場所	児童会室	活動時間	毎月第3月曜日の6校時を定例とし、その他必要に応じて行う。
代表委員会活動（予想される活動）		指導上の留意点	
1学期	○代表委員会の組織づくりを行い、1年間の活動計画を作成する。	・児童会計画委員会については、高学年の学級代表・委員会の代表が輪番で組織、運営できるように助言する。 ・前年度の活動記録を参考に、今年度の予定を作成するように指導する。【3(2)】	

〈話し合いの議題案〉

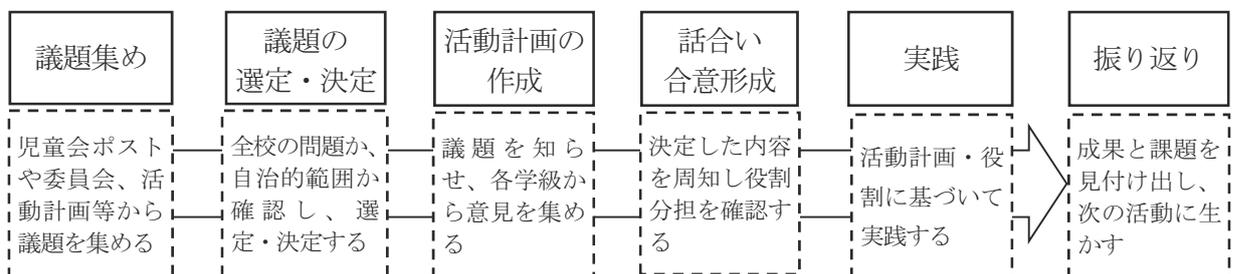
- ・1年生を迎える会をしよう
- ・全校遠足の遊びを計画しよう
- ・○○小祭りの内容を決めよう
- ・開校を祝う会をしよう
- ・あいさつ運動を計画しよう
- ・6年生を送る会をしよう
- ・運動会を盛り上げよう
- ・「いじめ0（ゼロ）」集会をしよう

〈留意事項〉

○児童の実態や発達の段階を考慮し、自主的、実践的な活動が助長されるようにする。

○学級代表が参加しない低学年の児童も計画や運営に関わることができるよう、活動を工夫する。

イ 代表委員会の活動例



(4) 委員会活動

ア 委員会活動の年間指導計画例

本校における 委員会活動の目標	学校生活の充実と向上を目指し、学校内の仕事を分担処理するとともに、発意・発想を生かし、創意工夫するなど、自主的、実践的に取り組むことを通して、合意形成を図ったり、よりよい人間関係を形成したりできるようにする。		定例活動日 第1木曜日第6校時
	予想される主な活動内容	指導上の留意点	
1 学 期	・自己紹介、委員長等の選出 ・年間活動計画の作成、仕事分担 ・委員会の活動紹介の計画と準備	・年間、学期、月ごとに活動計画を立てるように指導する。 ・定例活動日を設け、常時活動の内容確認や、学校生活をよりよくするためにできることを考え、活動内容や活動計画を話し合う。	
2 学 期	・活動計画に沿って各学期の活動 ・学期末のまとめと振り返り ・短時間（15分程度）の児童集会の計画、実施	・活動を進める中で、学校生活の充実と向上を図るための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図って実践する機会を大切にする。【3(2)】 ・異年齢集団を生かした仕事分担を行い、共に協力し、責任をもって活動に取り組めるようにする。【3(5)】	
3 学 期	・活動計画の見直しと作成 ・1年間の活動のまとめと評価 ・次年度への引継ぎの準備	・児童一人一人の活動状況のよさを積極的に見取る評価を行う。 ・学校行事の特質に応じ、活動の一部を担当したり、運営に協力したりできるようにする。	
委員会	担当者	活動場所	予想される活動の目標（◎）と主な活動内容（・）
美化	2名	4-2	◎きれいな環境の中で過ごせるように、美化活動を工夫する。 ・美化計画 ・校内クリーン活動 ・リサイクル活動 ・掲示板装飾 等
保健	2名	保健室 1-1	◎明るく健康な生活を送ることができるように、保健活動を工夫する。 ・ポスターの作成と掲示 ・健康やけがの調査 ・保健ニュースの放送 等

〈留意事項〉

○児童による自主的、実践的な活動の充実を図るため、児童数や学級数、指導に当たる教職員組織、施設、設備などの学校の実態を考慮し、創意工夫して指導計画を作成する。

イ 教師が作成する図書委員会の年間指導計画例

図書委員会	活動目標	本に興味をもって読む児童が増えるように、読書に親しめる活動を工夫する。
主な活動	・図書室紹介 ・読書発表会 ・読書週間のイベントの実施 ・図書整備 ・本の貸出活動 ・本の紹介 等	
月	予想される活動内容（定例・常時）	指導上の留意点
10月	【定例】10月の活動の計画立案、読書週間の話し合い 【常時】図書整理、貸出活動、イベントの準備	・全校児童が意欲的に参加できる工夫を考慮することで、合意形成できるようにする。【3(1)】
3月	【定例】1年間のまとめと評価、次年度への引継ぎ	・次年度の年間指導計画に生かせるようにする。

〈留意事項〉

○教師が作成する指導計画は、児童の活動として取り上げるべき具体的な内容、方法、時間等の基本的な枠組みとし、それを基に児童の手により具体的な活動計画が立てられるようにする。【3(2)】

○児童が作成する活動計画には、年間活動計画と1単位時間の活動計画などがある。

児童会集会活動

ア 児童会集会活動の年間指導計画例

本校における 児童会集会活動の目標	学年や学級が異なる児童と楽しく交流することや、創意工夫して活動するなどの自主的、実践的な活動を通して、合意形成を図ったり、よりよい人間関係を形成したりできるようにする。		
種類	全校児童集会		学年児童集会
月	比較的規模の大きい集会	短時間で実施する集会	複数年、同一学年で実施する集会
	代表委員会主催（学期1～2回）	集会委員会や各委員会が担当（月1回業前）	
4月	4/○ 1校時 1年生を迎える会	じゃんけんゲーム集会（集会委員会）	○年生よろしく集会（学年）
10月	10/○ 3校時 ○○小祭り	クリーン活動集会（環境美化委員会）	なかよし集会（1年、6年）

〈留意事項〉

○集会は教師の適切な指導の下、異年齢集団による交流のよさを一層重視し、児童の発意・発想を生かして計画・運営するとともに、全ての児童が主体的に参加できるように配慮する。【3(1)】

○児童が作成する1単位時間の活動計画は、活動名、日時、ねらい、活動内容、準備、分担等を入れる。

○集会の形態としては、全校児童、複数年の児童、同一学年の児童で行われるものなどが考えられる。

イ 児童会集会活動の活動例

予想される活動例（比較的規模の大きい集会）		予想される活動例（短時間の集会、学年集会）	
ありがとう集会	・学校応援団を招いて感謝を表す集会 活動紹介のクイズ、感謝状、歌 等	大なわ集会	・仲間と心を合わせ記録に挑戦する集会 8の字とび競技、表彰、感想発表 等
6年生を送る会	・お礼と激励の気持ちを表す集会 各学年の出し物、呼びかけ、歌 等	いじめ0集会	・個々を大切に、いじめ0を目指す集会 標語、近隣中学校の取組の紹介 等

4 クラブ活動

(1) クラブ活動の組織づくり

指導	手順例	方法例
前年度の指導	クラブ選択 ①新設クラブの希望調査 ②クラブ紹介 ③クラブの成果発表 ④クラブの設置 ⑤クラブ活動希望調査	〈3学期中に計画的に実施〉 ○新4年生以上の児童を対象に新設クラブの希望調査を行い、クラブ活動の新設及び統廃合する場合の資料とする。 ○新4年生に向けて、クラブ長を中心に行う。 (集会・新聞・ポスター・校内放送等) ○各学期又は年間のまとめとして行う。(クラブ見学・発表会等) ○児童の希望を尊重し、学校の職員数や施設等を考慮し、自発的、自治的な活動の範囲内で行えるクラブを設ける。 ○教師の適切な指導の下、希望クラブを三つ程選ぶ。
新年度の指導	組織づくり ①所属の確認 ②指導教師の決定 ③児童による組織づくり (第1回目)	〈年度当初に計画的に実施〉 ○前年度の希望調査を管理し、確実な引継ぎを書面にて行う。 ○全教職員での指導体制を整え、担当を複数にする。 ○児童が学期、月ごとなどの活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たることができるようになる。活動計画を立てる際には、児童の話合いによって決めることが大切である。【3(2)】

〈留意事項〉

- クラブへの所属については児童の興味・関心を大切に、異年齢による自発的、自治的な活動が効果的に展開できるように教師の適切な指導の下に決める。
- クラブ活動を組織するに当たり、指導教師の数や施設、地域の実態などを考慮するとともに、安全面に配慮するなど十分な検討を行い、実施するようにする。

(2) クラブ活動の年間指導計画及び活動計画例

ア クラブ活動の年間指導計画例

指導目標	○クラブ活動に自主的、実践的に取り組む中で、意義を理解し、活動の仕方を身に付けるようにする。 ○よりよいクラブにするため、合意形成を図ったり、異年齢の人間関係をよりよく形成したりすることができる。 ○クラブを通して、身に付けたことを生かし、協力して目標を育成しようとしたり、自分のよさを生かそうとしたりする態度を養う。				
学期	予想される主な活動内容			指導上の留意点	
1学期	○自己紹介をし、クラブ長等を選出する。 ○活動内容を話し合い、年間指導計画を作成する。 ○活動計画に沿って1学期の活動を楽しむ。 ○1学期のまとめと反省をする。(カードの記入等)			・児童の発達の特徴や活動への関心、自発的な活動の経験を捉え、それらに応じた指導ができるよう計画する。【3(1)】 ・課題の設定や振り返りといった活動の過程を重視する。【3(2)】 ・活動の仕方やきまりを工夫し、経験差や学年差を補い、異年齢の児童が協力して活動できるように配慮する。【3(5)】 ・教師不在で活動が行われなように支援体制を整えて、事故防止に配慮する。	
2学期	○2学期の活動計画を立てる。 ○活動計画に沿って2学期の活動を楽しむ。 ○2学期のまとめと反省をする。				
3学期	○3学期の活動計画や発表会に向けて話し合う。 ○3学期の活動を楽しみ、発表会に向けた準備をする。 ○1年のまとめと評価をする。				
クラブ名	主な活動内容	場所	クラブ名	主な活動内容	場所
手芸調理	作品を作る、料理を作る	家庭科室	科学工作	科学実験や工作を行う	理科室
室内スポーツ	ルールを決め、試合を楽しむ	体育館	伝統文化	習字や囲碁などを体験する	地域交流室・公民館

〈留意事項〉

- 家庭や地域の人々の協力を得たり、社会教育施設等を活用したりすることに努める。【3(4)】
- 児童の自発的、自治的な活動を効果的に展開するため、年間や学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。
- 年間の活動のまとめとして、全校児童や地域の人々の前で「クラブ発表会」を行うことが考えられる。この発表会を次年度にクラブを選択する際のオリエンテーションの機会とすることも考えられる。【3(3)】

イ 教師が作成する室内スポーツクラブの年間指導計画例

室内スポーツクラブ年間指導計画		担当者	〇〇〇 〇〇〇	活動場所	体育館	所属人数	〇〇名
活動目標		異年齢での活動や協力を大切に、室内スポーツに慣れ親しみ、楽しんで活動に取り組む。					
学期	時数	予想される活動		指導上の留意点		備品・消耗品	
1	8 12	○組織づくり (役員決め・グループ編成) ○活動計画の立案 ○室内スポーツに慣れ親しむ ・バスケットボール ・ソフトバレーボール ・ドッジボール ・バドミントン ・卓球 他 ○1学期のまとめ		・クラブ活動の意義の理解を図り、創意工夫して活動できるように助言する。 ・活動計画は児童自らの手で具体的に立てられるものであるため、所属する児童全員の話し合いによって決めていく。【3(2)】 ・異年齢での活動のため、ペアやチーム内で教え合いの時間を確保したり、グループごとに輪番で運営したりする。【3(5)】 ・個人的な技能の向上や知識の定着を図ることに終始しないよう配慮する。		・各スポーツに必要な用具 ・児童の発案をもとに考えられるもの	
2	11 15	○活動計画の立案 ○室内スポーツに慣れ親しむ ○2学期の反省		・各スポーツの基本的なルールを確認し、自分たちで工夫することで、チームで協力して楽しめるようにする。【3(2)】		・各スポーツに必要な用具	
3	6 8	○活動計画の立案 ○室内スポーツに慣れ親しむ ○クラブ発表会に向けて ○クラブ発表会 ○1年間の反省		・活動の成果が効果的に発表できるように計画を立て、自主的に協力して準備と練習ができるよう時間を確保する。 ・発表会は学校行事や集会、地域の行事で行うなど、学校の実態に応じて設定するようにする。【3(4)】		・各スポーツに必要な用具 ・模造紙 ・画用紙 ・ペン	

(留意事項)

- 指導目標を明確にし、児童の発達の段階や学校、地域の実態に即して、各クラブ担当の教師が作成する。
- 多面的な評価を行うために、担当するクラブの児童に積極的に関わるとともに、各学級の児童の情報交換を適宜行い、共通理解を図る。

ウ 児童が作成する手芸調理クラブの活動計画例

手芸調理クラブ活動計画		クラブ長	〇〇	記録	〇〇	所属人数	〇〇名	活動場所	家庭科室	
目標		手芸や調理を楽しみ、メンバーで協力して活動する。								
学期	時数	月	主な活動内容				準備するもの			
1	8 12	4	○役割分担(クラブ長や記録等)を決め、年間活動計画を立てる。				裁縫道具 調理器具 はさみ、のり 他			
		5	○手芸の基礎を学び、自分の作りたいものを作成する。							
		6	○自分たちで手軽に作れる調理を行い、調理の楽しさを味わう。							
3	6 8	7	○自分や家庭で使う小物作りをしたり、自分たちで作ることができる範囲内でデザートを作ったりする。				模造紙 画用紙 ペン 展示版 等			
		1	○1年間の成果を発表するクラブ発表会の計画を立てる。							
		2	○クラブ発表会の役割分担をしたり、作品作りをしたりするとともに発表会に向けた練習を行う。							
		3	○1年間の活動を反省し、次の年の参考になるようにまとめる。							

(留意事項)

- クラブ活動は共通の興味・関心を追求する自発的、自治的な活動であるため、教科色の強い活動となることのないように、また、活動が児童の負担過重にならないように十分配慮する。
- 児童が作成する活動計画に示す内容は、目標や各月などの活動内容、準備物、役割分担などが考えられる。
- 活動を振り返り、新たな目標や課題がもつことができるように児童自身の自己評価や成員相互による評価を適切に行う。
- 活動計画の作成に当たり、食品を取り扱う際には、担当者が事前にアレルギーをもっている児童を把握するとともに、危険が及ばないように十分材料の確認を行う等、健康や安全に十分に配慮する。

5 学校行事

(1) 学校行事の年間計画例

月	儀式的行事	文化的行事	健康安全・体育的行事	遠足・集団宿泊的行事	勤労生産・奉仕的行事	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4	始業式 入学式 離任式		通学班編成 健康診断			1 1 3	1 1 3	1 1 3	1 1 3	1 1 3	1 1 3
5			避難引渡訓練 交通安全教室 運動会		プール清掃	1 1 5	1 1 5	1 1 5	1 1 5	1 1 5	1 1 5
6				全校遠足		5	5	5	5	5	5
7	終業式			林間学校 (総合で5時間)		1	1	1	1	1	1
8	始業式					1	1	1	1	1	1
9			避難訓練			1	1	1	1	1	1
10		学習発表会		修学旅行		2	2	2	2	2	11
11		芸術鑑賞会			地域清掃	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
12	終業式					1	1	1	1	1	1
1	始業式					1	1	1	1	1	1
2					地域交流活動	1	1	1	1	1	1
3	卒業式予行 卒業式 修了式		避難訓練 新通学班一斉下校 (新通学班編成)		大掃除	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1
								2 3	2 3	2 3	2 3
						1	1	1	1	1	1

〈留意事項〉

- 学校行事の計画は、1年間を見通し、特定の時期に行事が集中しないように配慮する。また、5つの内容について、すべての学年で取り組むことができるように配慮し計画する。
- 幼児、高齢者、障害のある人々との触れ合いや、自然の家等の社会教育施設を活用した自然体験や社会体験などを積極的に取り入れる。【3(4)】
- 「林間学校 (総合で5時間)」とは、指導計画の中に、総合的な学習の時間 (課題解決に向けた探求活動) を5時間行うことを意味する。
- 文化的行事の学習発表会には、展覧会、音楽会なども考えられる。芸術鑑賞会には、演劇、音楽等の芸術に触れることが考えられる。また、勤労生産・奉仕的行事には、飼育活動、栽培活動なども考えられる。

(2) 学校行事年間指導計画例

月	行事名	ねらい	内容	学年	指導上の留意点	時数
4 6	全校遠足 宿泊的行事	校外における集団活動を通して人間関係を深める。自然や文化に直接触れる体験を通して学習活動の充実を図る。	・場所—〇〇公園 ・出発式 ・グループ毎に遊ぶ。 ・解散式	全学年	・事前に顔合わせ等を行い、遊びの計画を立てておくとともに、様々な学年と交流する機会を十分にもつことができるようにする。 【3(5)】	5
10	学習発表会 文化的行事	協力して、よりよいものをつくり出し、発表し合うことにより、自他のよさを見付け合う喜びを体得する。	・開会の言葉 ・児童代表の言葉 ・学年の発表 ・全体合唱 ・閉会の言葉	全学年	・普段の学習活動を生かしたものとす。 【3(3)】 ・児童の負担過重にならないよう配慮する。	2
11	地域清掃 奉仕的行事	学校の周りの地域を清掃し、公共や他者のために積極的に取り組もうとする態度を育てる。	・校長先生の話 ・活動時の注意 ・清掃活動 ・地域の人の話	全学年	・地域の自治会等と連絡を取り合い、一緒に清掃活動を行うことができるようにする。 【3(4)】	2

〈留意事項〉

- 学校行事の年間指導計画では、行事ごとの大まかなねらい、内容等について年間を通して見通せるようにする。詳細については、各行事の指導計画で立案する。
- 各教科等で身に付けた資質・能力などを学校行事においてよりよく活用できるようにしたり、学校行事で身に付けた資質・能力を各教科等の学習に生かしたりできるように配慮する。【3(3)】

(3) 各行事の指導計画例

ア 儀式的行事「入学式」の指導計画例

1 ねらい

- 入学式の意義を理解し、ふさわしい参加の仕方や気品のある行動の仕方を身に付けるようにする。
- 新しい生活への希望や意欲につなげるように考え、入学式において、規則正しく行動できるようにする。
- 入学式への参加を通して、これからの学校生活への希望や意欲をもって臨もうとする態度を養う。

2 実施計画

- (1)期日 4月○日 (○) 時間○：○○～○：○○ (2)場所 体育館
 (3)参加学年 1、6年 (4)役割分担・事前の準備と教師の役割 (略)

3 指導内容

(1)事前指導

- 入学式参加の指導 ○国歌の練習 ○歓迎の言葉・歌の練習 ○入学式準備の児童の活動

(2)展開

式次第	指導上の留意点
1 開式の言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・国旗及び国歌については、それらを尊重できるよう、社会科、音楽科との関連を図り、正しい認識をもてるよう指導しておく。 【3(3)】 ・1年生の呼名については、事前に名前をよく確認しておくとともに、1年生には呼ばれたら返事をするよう指導しておく。【3(1)】 ・歓迎の言葉は、1年生がこれからの学校生活への期待がもてるようにするために、代表委員会の児童を中心に原案を作成し、事前に練習しておく。 ・在校生代表として自信と誇りをもって校歌を斉唱できるよう、事前に練習しておく。【3(5)】
2 国歌斉唱	
3 校長式辞	
4 1年生担任発表並びに教職員紹介	
5 入学児童の呼名	
6 教育委員会告辞	
7 来賓祝辞	
8 来賓紹介並びに祝電披露	
9 歓迎の言葉	
10 校歌斉唱	
11 閉式の言葉	

- (3)事後指導 ○新入児童への指導 ○参加しなかった学年への指導 ○参加児童への指導

4 評価規準 (略)

〈留意事項〉

- 国旗は、国旗掲揚塔及び式場内の正面に掲揚し、国歌は、前年度より音楽科の学習との関連を図り、指導し、歌えるようにする。

イ 健康安全・体育的行事「避難訓練」の指導計画例

1 ねらい

- 訓練の意図を理解し、非常事態（竜巻）での身の守り方や必要な行動の仕方を身に付けるようにする。
- 安全に避難し、身を守る方法について考え、他者と協力して適切に判断し、行動できるようにする。
- 訓練を通して、防災に対する意識を高め、日常生活に生そうとする態度を養う。

2 実施計画

- (1)期日 9月○日 (○) 第2校時 (2)場所 各教室
 (3)参加学年 全学年 (4)役割分担 (略)

3 指導内容

- (1)事前指導 ○避難経路、避難場所、避難の仕方の確認 ○竜巻についての指導

(2)展開

活動の流れ	指導上の留意点
1 竜巻発生の通報	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路、避難場所については、事前によく確認しておく。 ・整列後、速やかに避難場所へ移動し、なるべく体勢を低くして隣の児童と肩を組むよう指示を出す。 ・放送に耳を傾け、避難場所で静かに話が聞けるようにする。
2 避難の指示・防災本部の設置	
3 避難指示の解除	
4 指導講評	

- (3)事後指導 ○各学級における振り返り 【3(2)】

4 評価規準 (略)

〈留意事項〉

- 地域の環境や地形、自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは特に重視して行う。【3(4)】

【付録】

埼玉県小学校教育課程編成要領改訂の趣旨と方針

1 埼玉県小学校教育課程編成要領改訂の趣旨

今回、国における教育課程の基準の改善が行われ、平成29年3月31日に学校教育法施行規則の一部が改正され、新しい小学校学習指導要領が告示された。

これに伴い、その趣旨に基づいて、平成21年3月に作成した埼玉県小学校教育課程編成要領を改訂することとした。

(1) 埼玉県小学校教育課程編成要領の作成・改訂の経緯

- ア 昭和27年 最初の埼玉県基準教育課程小学校編の作成（昭和26年の学習指導要領の改訂による）
昭和26年の改訂に基づいて作成された。これを本県の実態に即して地域化し、学校で教育課程を編成する際の具体的な手掛かりを提供した。
〔注〕昭和54年改訂の際、「埼玉県小学校教育課程編成要領」と改称された。
- イ 昭和36年 埼玉県基準教育課程小学校編の第一次改訂（昭和33年の学習指導要領の改訂による）
昭和33年の改訂の基本方針には、「基礎学力の向上」、「道徳教育の重視」、「科学技術教育の振興」の三つの柱が立てられた。教科主義的な立場が改めて見直され、国民としての資質、能力という視点が大切に考えられるように示され、この趣旨を踏まえて改訂が行われた。
- ウ 昭和45年 埼玉県基準教育課程小学校編の第二次改訂（昭和43年の学習指導要領の改訂による）
昭和43年の改訂の基本方針は、「基本的事項の精選」が挙げられ、国の基準の明確化を図るとともに「年間の授業時数を標準で示す」ことなどによって、教育課程の基準に弾力性をもたせ、社会情勢の変化に応じようとするものであった。埼玉県基準教育課程小学校編も、このような趣旨を重んじて改訂が行われた。
- エ 昭和54年 埼玉県小学校教育課程編成要領への改訂・改称（昭和52年の学習指導要領の改訂による）
昭和52年の改訂は、「自ら考え正しく判断できる力をもつ児童の育成」を重視し、人間性豊かな児童の育成を目指し、指導内容を基礎的・基本的な事項に精選して、ゆとりのある学校生活の中で学校や教師の創意工夫などとあいまって、知・徳・体の調和のとれた発達を促し、基礎・基本を確実に身に付けさせることをねらい、この趣旨を尊重し、改訂・改称された。
- オ 平成3年 埼玉県小学校教育課程編成要領の改訂（平成元年の学習指導要領の改訂による）
平成元年の改訂は、社会の変化とそれに伴う児童の生活や意識の変容に配慮しつつ、生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、21世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図ることを基本的なねらいとし、この趣旨を十分に踏まえて改訂された。
- カ 平成12年 埼玉県小学校教育課程編成要領の改訂（平成10年の学習指導要領の改訂による）
平成10年の改訂では、児童の実態、教育課程の実施の状況、社会の変化などを踏まえて、完全学校週5日制の下で、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、児童に豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを基本的なねらいとし、こうした国の示した教育課程の基準の趣旨を踏まえて改訂された。
- キ 平成21年 埼玉県小学校教育課程編成要領の改訂（平成20年の学習指導要領の改訂による）
平成20年の改訂では、教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することを基本的なねらいとし、この趣旨を十分踏まえて改訂された。

(2) 教育課程に関する法規

我が国の学校制度は、日本国憲法及び教育基本法の精神に則り、学校教育の目的や目標及び教育課程について、法令での定めがなされている。その中で、教育課程に関する法的な規定を見ると次のようなものがあり、各学校においてはこれらの法令にしたがって教育課程を編成しなければならない。

ア 教育基本法（平成18年12月22日施行）

教育基本法では、教育の目的（第1条）が示されている。

イ 学校教育法（平成29年4月1日施行）

学校教育法では、義務教育の目標が10号にわたって規定された（第21条）。その上で、小学校教育の目的（第29条）、

小学校教育の目標（第30条）が示されている。また、同条2項は、「前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と規定している。さらに、これらの規定に従い、文部科学大臣が小学校の教育課程の基準を定めることになっている（第33条）。

ウ 学校教育法施行規則（平成29年4月1日施行）

学校教育法の規定により、文部科学大臣は、同法施行規則において、教育課程の編成（第50条）、授業時数（第51条の別表第1）及び小学校学習指導要領（第52条）によって、国としての教育課程の基準を示している。

エ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成29年4月1日施行）

教育委員会は、学校の教育課程に関する事務を管理、執行し（第21条）、また、都道府県教育委員会は、市町村に対し、必要な指導、助言又は援助を行うことができる（第48条）と規定されている。

オ 市町村教育委員会の公立小中学校管理規則

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第33条の規定により、教育委員会は、所管する学校の教育課程の編成等について、学校管理規則を定めている。

(3) 埼玉県小学校教育課程編成要領の性格

各学校においては、法令及び学習指導要領に基づいて教育課程を編成し、具体的な指導計画を作成することになる。その際、法令や国の基準として示されている学習指導要領だけでなく、本県教育の現状と課題を踏まえた具体的な資料が必要である。

埼玉県小学校教育課程編成要領は法令や学習指導要領について、その趣旨を受けとめ、各学校において教育課程を編成するに当たっての具体的な資料を示したものである。

2 埼玉県小学校教育課程編成要領改訂の経緯と方針

(1) 埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会の設置

県教育委員会は、国の示した教育課程の基準の改善に基づき、本県の幼稚園、小学校、中学校における教育課程編成要領の改訂について検討するため、平成29年度に学識経験者、保護者、市町村教育委員会関係者、幼稚園・小学校・中学校の校（園）長、主幹教諭からなる埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会を設置した。

そして、平成29年7月に、「埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程編成要領の改訂について」の方向性を示している（付録「埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会報告」参照）。県教育委員会は、この趣旨を十分に尊重して、埼玉県小学校教育課程編成要領の改訂に当たることとした。

(2) 埼玉県小学校教育課程編成要領改訂の方針

県教育委員会は、基本方針を次のように定め、改訂に当たった。

ア 埼玉県教育課程編成要領の改訂に当たり、新しい幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領の改訂の基本的な考え方に基づき、本県の学校教育の現状を踏まえ、各学校において教育課程を編成する上での拠り所を示すなど、指導計画の作成の具体的な資料とする。

イ 平成29年7月28日付け埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会報告を尊重する。本改訂においては、「第一部（概要編）」と「第二部（総則及び各教科等編）」の二部構成とする。

「第一部（概要編）」

新しい学習指導要領等の趣旨等について重点化しつつ、後述する「第二部（総則及び各教科等編）」の内容を端的に分かり易くまとめたものを示す。

「第二部（総則及び各教科等編）」

小学校における総則、各教科、道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動について、各学校で指導計画を作成するに当たり、作成に役立つ具体的な資料を提供する。

(3) 埼玉県小学校教育課程編成要領改訂の経緯

県教育委員会は、県内の学校の校長、教頭、主幹教諭、教諭及び指導主事等139名を委員に委嘱・任命し、埼玉県小学校教育課程編成要領改訂協力委員会議を開催し、埼玉県小学校教育課程編成要領の改訂に着手した。

改訂作業は、埼玉県小学校教育課程編成要領改訂協力委員会議において、総則、各教科、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間及び特別活動の部会ごとに進め、細部にわたる検討を重ねた上で改訂案をまとめた。

【付録】

埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会報告

平成29年7月28日

埼玉県教育委員会教育長

小松 弥生 様

埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程検討委員会委員長

安原 輝彦

埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程編成要領の改訂について（報告）

本検討委員会では、平成29年6月9日から標記のことについて検討してまいりましたが、下記のような結論を得ましたので報告いたします。

記

本県の幼稚園、小学校及び中学校（以下「学校」という。）における教育課程編成要領については、日本国憲法の精神に則り、教育基本法に定める教育の目的と理念及び学校教育法に定める義務教育等の目標や学校の目的に沿い、平成29年3月31日に文部科学省が告示した教育課程の基準等に基づき、学校、幼児児童生徒及び地域の実態等に応じた教育課程が編成できるよう改訂することが重要である。

このため、本検討委員会は、次に示す1の「本県における学校教育の現状と課題」を踏まえ、2の「埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程編成要領の改訂について」に示す方向で進めることが望ましいと考えた。

1 本県における学校教育の現状と課題

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期す営みである。また、教育には、近年顕著となってきている情報化やグローバル化の加速度的な進展など変化の激しい社会において、自らの可能性を発揮し幸福な人生の創り手になるとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、共に協働しながら持続可能な社会の創り手となる人材の育成がより一層求められている。

このことから、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことは極めて重要であり、新しい幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領（以下「学習指導要領等」という。）が実施される上で、この普遍的な理念を継承し、一層の推進を図ることが肝要である。

本県では、かけがえのない「財産」である子供たち一人一人を「人財」とし、「自助・共助・公助」の観点から「埼玉教育の振興に関する大綱（平成27年12月策定）」、「埼玉県5か年計画（平成29年度から平成33年度まで）」、「第2期 生きる力と絆の埼玉教育プランー埼玉県教育振興基本計画ー（平成26年度から平成30年度まで）」において、学校・家庭・地域・行政が一体となって教育を推進しているところである。また、「教育行政重点施策」のもとで、教育行政を総合的に推進するとともに、各学校では、家庭や地域社会との連携を図りながら、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、子供たちの「生きる力」の育成を図っている。

具体的には、幼児教育の充実を図るため、「子育ての目安『3つのめばえ』」の取組を推進するとともに、発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携を推進している。また、「埼玉県学力・学習状況調査」の活用や「埼玉の子ども70万人体験活動」などの取組を実施し、家庭や地域社会との連携に努めながら、知・徳・体のバランスのとれた子供の育成を目指す学校教育を推進している。

平成20年度に改訂した幼稚園、小・中学校教育課程編成要領は、様々な教育課程編成事例等を示し、これまでも、各学校の特色ある教育課程の編成の支えとなってきた。

一方、昨年12月の中央教育審議会答申「『生きる力』の育成に向けた教育課程の課題」について、現行の学習指導要領で

は、「指導の目的が『何を知っているか』にとどまりがちであり、知っていることを活用して『何ができるようになるか』にまで発展していないのではないか」との指摘があった。このことは、各学校における教育課程編成の検討や工夫改善、教員一人一人の実践においてさらなる改善や創意工夫の必要が示唆されたものであり、県内全ての教員に対して新しい学習指導要領等の趣旨や内容を確実に浸透させる必要がある。また、冒頭述べた社会の変化とともに、人間関係や学力、体力、特別な支援を必要とする子供への対応などにおける諸課題について解決に向けた取組が必要となる中、ベテラン教員の大量退職とともに、若手教員の増加に伴って、これまで長年にわたり蓄積されてきた教育実践等の継承を図ることが大切である。

2 埼玉県幼稚園、小・中学校教育課程編成要領の改訂について

(1) 基本方針について

本県における学校教育の現状と課題からも、新しい学習指導要領等の趣旨等を分かりやすく伝える必要がある。また、教育課程編成要領の改訂は、これらの課題解決を図る好機と捉え、全ての教員が、教育課程編成要領を手にしたときに、今後の教育の方向性や教育課程編成の手順等を容易に理解できるよう工夫することが重要である。

そこで、本改訂においては「第一部（概要）」と「第二部（資料）」の二部構成とし、「概要」は、新しい学習指導要領等の趣旨等について全ての教員が理解できるよう重点化しつつ、後述する「資料」の内容を端的に分かり易くまとめたものとする必要がある。また、「資料」は、現行教育課程編成要領にある内容を、新しい学習指導要領等及び子供の現状に照らして見直しを図った内容とすることが必要である。

(2) 第一部（概要）で押さえる事項

ア 2030年の社会と目指すべき人材

冒頭述べた社会の変化は加速度的に進展してきている。中でも、進化した人工知能が様々な判断を行うなど社会や生活を大きく変えていく時代の到来が予測されている。

こうした中で、子供たち一人一人が、社会に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、あらゆる他者を価値ある存在として、共に協働できるなど、幸福な人生の創り手及びよりよい社会の創り手となっていけるようにすることが重要である。

また、新しい教育課程編成要領は、2030年の社会の在り方を見据えながら、子供たちが活躍することができる将来像を考えたものとしていくことも重要である。

このことに鑑み、よりよい学校教育をとおして、よりよい社会をつくっていく子供たちに、こんな大人になってもらいたいといった理想とする姿を描く必要がある。

イ 埼玉教育の現状と課題

今後の埼玉教育を見通すに当たっては、これまで本県が取り組んできた教育行政施策などに対して、子供たちがどう変容したのか、また、どんな課題があるのかなどをきちんと整理しておく必要がある。

ウ 学習指導要領等改訂のポイント

新しい学習指導要領等では、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」、「何を学ぶか」、「カリキュラム・マネジメント」、「社会に開かれた教育課程」などのキーワードが挙げられている。これらのキーワードを踏まえ、今後の埼玉教育の展望にも触れながらポイントを示す必要がある。

その中で、全ての教員が新しい学習指導要領等の趣旨等について理解を深めるため、「新」と「現行」の学習指導要領等において、何が変わったのか、継続していくものは何かを明確に示す。

小・中学校において、「埼玉県学力・学習状況調査」は、一人一人の子供の学力の伸びを示すものであり、「何ができるようになるか」を改訂の趣旨等とした新しい学習指導要領等に合致するものである。当該調査や授業改善の視点を整理した「主体的・対話的で深い学びの実現6則」など本県が進めてきた取組を教育課程の編成においてもしっかり関連づける。

さらに、特別な支援を必要とするなど課題のある子供への対応の必要性が増していることを踏まえ、一人一人の状況や発達の段階に応じて、力を伸ばしていくことができるよう、校（園）内の指導体制等についても示す。

これらを端的にまとめ、示すとともに、詳細な内容については、「第二部（資料）」で示す必要がある。

エ 指導計画の作成

各教科等の指導計画を作成するに当たり、「学習指導要領等改訂の趣旨や要点」及び「指導計画作成のポイント」等を押さえることが重要である。

これらを端的にまとめ、示すとともに、詳細な内容については、「第二部（資料）」で示す必要がある。

(3) 第二部（資料）で押さえる事項

ア 幼稚園等

幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼稚園等での生活の全体を通して、幼稚園等の教育におけるねらいが総合的に達成されるよう、教育課程の編成や指導計画の作成を行う必要がある。

その資料として、「幼稚園教育要領の改訂を踏まえた編成例」及び「長期・短期の指導計画の例」等を具体的に示す必要がある。

イ 小・中学校

(ア) 総則編

総則編では、教育課程の編成、実施についての大枠を示す。「編成の基本的な考え方」、「編成の一般的な手順」、「編成に当たっての留意すべき事項」及び「編成の特例」は、小・中学校の教育課程を編成するに当たっての重要な視点であることを押さえる必要がある。

また、学習指導要領改訂の基本方針である「改訂の基本的な考え方」、「育成を目指す資質・能力の明確化」、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」、「カリキュラム・マネジメントの推進」、「教育内容の主な改善事項」等について、教育課程を編成する際の考え方及び進め方を明確に示す必要がある。また、教育課程については、常に評価、改善を行う必要がある。

こうした考え方を示した上で、各学校の創意工夫の下、教育課程編成のための参考となる資料として、「授業時数や日課表等の作成例」及び「教育課程編成の事例」等を具体的に示す必要がある。

(イ) 各教科等編

各教科等編では、総則編の「学習指導要領改訂の基本方針」を踏まえ、指導計画の作成、実施について示す。「指導計画作成の基本的な考え方」、「指導計画作成の一般的な手順」及び「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」は、各教科等の指導計画を作成するに当たっての重要な視点であることを押さえる必要がある。

また、指導計画作成のための資料として、教科等の特性を生かしつつ、「年間指導計画例」等を可能な限り具体的に示す必要がある。

埼玉県小学校教育課程編成要領改訂協力委員名簿

(◎印は部会長、○印は副部会長を示す。)

【総則】

◎可知 良之	志木市立志木第三小学校長
○荻原 章	行田市立西小学校長
田辺 鉄章	深谷市立川本南小学校長
秋永 恵里	蓮田市立平野小学校教頭
齋藤 博伸	埼玉大学教育学部附属小学校副校長
長岡 潤	蕨市立北小学校主幹教諭
熊倉 秀幸	北本市立東小学校主幹教諭
荒川 統	嵐山町立菅谷小学校主幹教諭
工藤 泰輔	川越市立仙波小学校主幹教諭
中島 悠介	寄居町立寄居小学校主幹教諭
加藤 浩	皆野町立皆野小学校主幹教諭
稲毛 保典	白岡市立篠津小学校主幹教諭
山口 朋幸	八潮市立大瀬小学校主幹教諭
瀧沢 葉子	上尾市教育委員会副参事兼指導課長
野口 高志	県立総合教育センター主任指導主事
山崎 紀子	生徒指導課主任指導主事
小川 哲	保健体育課指導主事
阿相 道子	特別支援教育課指導主事
棚澤 大輔	人権教育課指導主事

【国語】

◎伊藤 秀一	狭山市立奥富小学校長
○吉野 富夫	熊谷市立石原小学校教頭
平野 裕子	川口市立柳崎小学校主幹教諭
池田 邦彦	入間市立藤沢東小学校主幹教諭
山田 英加	寄居町立鉢形小学校主幹教諭
阿部 慎一郎	春日部市立川辺小学校教諭
松下 洋介	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
浅井 大貴	熊谷市教育委員会指導主事
金野 泰久	行田市教育委員会指導主事兼主幹
山本 直人	東部教育事務所指導主事

【社会】

◎穂村 憲久	久喜市立太田小学校長
○岡田 大助	川口市教育委員会指導主事
新井 祐紀	所沢市立上新井小学校主幹教諭
飯塚 健太	深谷市立深谷小学校主幹教諭
向井 隆盛	行田市立中央小学校主幹教諭
渡部 健	蕨市立中央小学校教諭
矢島 弘一	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
市川 宝生	本庄市教育委員会指導主事
宮澤 忍	西部教育事務所指導主事
篠田 かなえ	北部教育事務所指導主事

【算数】

◎林 義典	北本市立中丸東小学校長
○平田 富美代	三郷市立高州東小学校教頭
菊地 奈津子	戸田市立美谷本小学校教諭
新井 雅代	川島町立八ッ保小学校教諭
金井 大典	熊谷市立熊谷西小学校教諭
林 圭二郎	幸手市立さかえ小学校教諭
神谷 直典	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
岸田 初美	川越市教育委員会指導主事
新井 章弘	県立総合教育センター指導主事
和田 進	東部教育事務所指導主事

【理科】

◎竹田 聡	越生町立越生小学校長
○大山 亨	越谷市立花田小学校教頭
仲尾 健	戸田市立戸田第二小学校主幹教諭
林 和彦	横瀬町立横瀬小学校主幹教諭
島田 広彦	滑川町立月の輪小学校教諭
阿部 孝洋	吉川市立栄小学校教諭
杉山 直樹	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
浅野 貴之	深谷市教育委員会課長補佐兼指導主事
戸口 智雄	西部教育事務所指導主事
小泉 貴寛	北部教育事務所指導主事

【生活】

◎小川 聖子	行田市立南河原小学校長
○石橋 桂子	春日部市立豊春小学校長
新原 秀典	越谷市立大袋東小学校主幹教諭
黒田 智子	川口市立舟戸小学校教諭
中田 泰志	所沢市立若狭小学校教諭
関根 千保	熊谷市立妻沼南小学校教諭
若村 健一	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
藤田 恵子	所沢市教育委員会指導主事
増田 貴光	県立総合教育センター指導主事
市川 篤史	北部教育事務所秩父支所指導主事

【音楽】

◎関口 景子	川口市立本町小学校長
○清水 乃理子	行田市立北河原小学校長
荻野 智子	坂戸市立桜小学校教頭
岡野 千暁	蕨市立東小学校教諭
蝦 真理子	日高市立高麗川小学校教諭
川上 行彦	熊谷市立吉見小学校教諭
木下 喜子	宮代町立百間小学校教諭
波多江 慶太	埼玉大学教育学部附属小学校教諭
橋本 慎也	滑川町教育委員会指導主事
柳田 加代	東部教育事務所指導主事

【図画工作】

- ◎山根 淳一 戸田市立新曾北小学校長
- 木村 浩 熊谷市立奈良小学校教頭
- 岡村 勝成 八潮市立八條北小学校教頭
- 栗城 敦志 加須市立水深小学校主幹教諭
- 宮澤 直美 新座市立陣屋小学校教諭
- 新家子 美知子 ふじみ野市立元福小学校教諭
- 古屋 美恵子 深谷市立深谷西小学校教諭
- 廣田 和人 埼玉大学教育学部附属小学校教諭
- 興野 邦孝 上尾市教育委員会副主幹兼指導主事
- 中 和馬 西部教育事務所指導主事

【家庭】

- ◎小峯 由起子 羽生市立須影小学校長
- 井上 千春 川口市立東本郷小学校長
- 影山 葉子 新座市立新座中学校教頭
- 井上 弘江 久喜市立青毛小学校教頭
- 棚村 かおり 深谷市立幡羅小学校教頭
- 柴山 朋子 桶川市立桶川東小学校教諭
- 石川 陽子 鳩山町立今宿小学校教諭
- 大山 方住 本庄市立旭小学校教諭
- 奥 知子 羽生市立羽生北小学校教諭
- 吉田 みゆき 埼玉大学教育学部附属小学校教諭

【体育】

- ◎中西 健二 三郷市立新和小学校長
- 大松 武晴 越谷市立南越谷小学校教頭
- 河野 裕一 埼玉大学教育学部附属小学校主幹教諭
- 蛭原 康平 朝霞市立朝霞第三小学校教諭
- 尾崎 孝之 狭山市立南小学校教諭
- 山中 崇 皆野町立三沢小学校教諭
- 亀山 友宏 行田市立星宮小学校教諭
- 森 奈緒子 鴻巣市教育委員会指導主事
- 小林 亘 深谷市教育委員会課長補佐兼指導主事
- 長岡 剛 県立総合教育センター指導主事

【外国語活動・外国語】

- ◎小林 美音 所沢市立美原小学校長
- 石川 光里 久喜市立江面第一小学校長
- 川田 博樹 本庄市立本庄東中学校教頭
- 武井 勇紀 伊奈町立小室小学校教諭
- 中村 博 坂戸市立城山小学校教諭
- 深澤 信也 熊谷市立別府小学校教諭
- 三村 綾子 春日部市立柏壁小学校教諭
- 岡村 賢一 熊谷市教育委員会指導主事
- 須澤 美和子 県立総合教育センター指導主事
- 内山 真二 東部教育事務所指導主事

【総合的な学習の時間】

- ◎竹森 努 三郷市立戸ヶ崎小学校長
- 境野 仁 深谷市立明戸小学校教頭
- 坂本 信之 幸手市立八代小学校教頭
- 片桐 雅人 新座市立野火止小学校教諭
- 五月女 竜也 所沢市立安松小学校教諭
- 茂木 孝之 上里町立神保原小学校教諭
- 小檜山 佳代子 春日部市立桜川小学校教諭
- 横田 典久 埼玉大学教育学部附属小学校教諭
- 神田 美佐子 久喜市教育委員会指導主事
- 安東 由美子 東部教育事務所指導主事

【特別活動】

- ◎木場 真理 越谷市立蒲生南小学校長
- 野村 佐智夫 富士見市立関沢小学校教頭
- 山田 絵美 上尾市立原市南小学校主幹教諭
- 萩原 健司 久喜市立鷲宮小学校主幹教諭
- 山形 悟 富士見市立鶴瀬小学校教諭
- 篠原 剛 深谷市立豊里小学校教諭
- 田島 昌子 越谷市教育委員会主任指導主事
- 村松 淳一 白岡市教育委員会指導主事
- 渡邊 淳 加須市教育委員会主幹兼指導主事
- 添野 圭介 県立加須げんきプラザ担当課長

なお、教育局においては、次の者が作成に当たった。

- 大根田 頼尚 義務教育指導課長
- 増田 正夫 義務教育指導課教育指導幹
- 日詰 恵美子 義務教育指導課指導主事（総則）
- 竹内 徳望 義務教育指導課指導主事（総則）
- 橋爪 優 義務教育指導課指導主事（国語）
- 辻 英一 義務教育指導課指導主事（社会）
- 志村 憲一 義務教育指導課指導主事（算数）
- 下妻 淳志 義務教育指導課指導主事（理科）
- 小峰 元 義務教育指導課指導主事
(生活・総合的な学習の時間)
- 齋藤 直美 義務教育指導課指導主事（音楽）
- 武田 圭介 義務教育指導課主任指導主事
(図画工作)
- 佐藤 朋子 義務教育指導課指導主事（家庭）
- 佐藤 泰弘 保健体育課指導主事（体育）
- 福沢 仁恵 義務教育指導課主任指導主事
(外国語活動・外国語)
- 安元 信幸 義務教育指導課指導主事（道徳）
- 渡邊 典孝 義務教育指導課指導主事（特別活動）

道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）については、平成28年3月に改訂した「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」を一部書き換え、本編成要領の第二部（総則及び各教科等編）に掲載した。以下、その当時の改訂協力委員を示す。

【道徳】

◎土井 雅弘	坂戸市立入西小学校長
○浅見 哲也	深谷市立豊里小学校教頭
船越 一英	和光市立白子小学校主幹教諭
佐藤 香織	川島町立中山小学校教諭
芳賀 一行	本庄市立中央小学校教諭
瀧澤 美雪	三郷市立吹上小学校教諭
原 卓範	川口市教育委員会指導主事
本多 斎士	深谷市教育委員会指導主事
鈴木 孝雄	西部教育事務所指導主事
磯山 貴則	東部教育事務所指導主事

【事務局】

依田 英樹	生徒指導課長
豊田 清明	生徒指導課副課長
上松 寿明	生徒指導課主幹
嘉藤 央	生徒指導課指導主事
横張 亜希子	生徒指導課指導主事
藤間 隆子	生徒指導課指導主事

参 考

- 「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 国語編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 理科編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 生活編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 音楽編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 家庭編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 体育編」（平成29年7月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 外国語編」（平成29年7月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」（平成29年7月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（平成29年6月）文部科学省
- 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年6月）文部科学省